

改稱せり。設備は凡て日本人の施工に係り使用材料も殆んど日本系にして技師ももと遼陽電燈  
会社に勤務せる關係上日本色最も濃厚にして成績亦良好なり。

滿洲事變後先方より進んで開原電氣株式會社に合辦方を申出でたるにより同社に於て調査  
せる結果之を受諾、新に資本金國幣六萬圓(全額拂込)の合辦公司設立を計畫官廳に申請中の處昭和八  
年十一月設立認可さる。電力は開原電氣會社より契約容量六〇KW電氣方式三相三線式五〇サ  
イクル三、〇〇〇乃至三、三〇〇Vにて供給することゝなれり。其後合辦公司設立の準備なり、九年  
六月二十七日實業部より營業執照下附さる。

一、資 本 金 (一〇三)

公稱 資本金 國 幣 六〇、〇〇〇圓  
拂込 資本金 同 六〇、〇〇〇圓

二、受 電 設 備 (一〇三)

受 電 容 量 七五KVA(五〇サイクル)

三、内 外 線 設 備 (九二)

電 壓 高壓三、三〇〇V 低壓電燈用一〇〇V 電力用二〇〇V  
電 氣 方 式 交流三相三線式  
電 柱 本 數 二八六本

變 壓 器 二七台 一六九VKA

四、需 用 狀 况 (九二〇)

電 燈	定 額	六〇六戸	一、〇五七燈
	從 量	一〇四戸	一、一四〇燈
	計	七一〇戸	二、一九七燈
電 力		五戸	一二二馬力

五、從 事 員 (一〇三)

代 表 者 千々和正彦  
其 他 一三人

八 西 豐 電 業 股 份 有 限 公 司

金州の人王恩榮氏は明治三十一年(光緒二)初めて當地に來り建築請負業を初め油坊等を經營  
しつゝありしが大正六年に至り電氣事業を計畫し翌七年十月資本金奉小洋十三萬元の西豐電  
燈公司を設立せり。發電機(交流四十)一式は米商慎昌洋行より購入し電燈約三千四百燈を供給せ  
しが負荷過重のため故障頻發し昭和二年一月止むなく事業を閉鎖せり。茲に於て慎昌洋行に對  
する機器代金の擔保に提供したる發電機のみを残し汽罐其の他の諸機械は一切之を處分せり

其の後開原の盧實田(良字士)氏は開拓汽車公司副經理楊成能氏、同監察員高元棟氏、西豐商務會長劉錫侯氏、同副會長佟樹三氏及西豐福昌東主吳蘭亭氏と相謀り事業の再興に就き斡旋するところあり、開原和登洋行を通じて滿電に對し之か援助方を申出づるに至りたり。滿電に於ても嚮に現状を調査したる結果前經營者の施設は殆んど再用の餘地なきも此の際金拾貳萬圓を投せば約三千燈の電燈を供給し得べく年々相當の利益を擧げ得る見込立ちたるに依り、盧氏にもある程度の出資を求め殘額は滿電に於て融通すべく計畫せり。而して滿電の投資に對する官邊の諒解は或る程度まで期待せらるゝに至りたるが日本人を現地に派遣して業務上の監督に任せしむる點に就き先方に相當異議ありたり。

昭和五年四月に至り盧氏は鐵嶺の資産家鄭宏毅氏と相謀り西豐竝開原城内に於ける電氣事業及び鐵嶺法庫間の乗合自動車事業の計畫を進め滿電に之が企業資金の融通方を交渉するところありたるに依り滿電としても慎重に其の援助條件を調査しつゝありしが、此の間盧氏は西豐寶豐煤礦股份有限公司總辦崔寶山氏と協議し同公司をして旁ら電氣事業を經營せしめんとし在鐵嶺領事を通じて滿電に對し速かに契約を締結する様懇請し來れり。

之に對し滿電は煤礦と電氣との合辦事業にまで投資することは心進まず其の要望に副ひがたき旨言明せり。其の後同公司協理馮家賢氏より煤礦と切離して電氣事業を經營することゝしたしと言來りしも滿電としては猶も之を他日の交渉に譲りたり。然るに事變後先方より進んで

協同の誠意を披瀝し開原電氣株式會社に對し合辦方を申出でたるを以て同社に於て調査の結果其の要望を容れ資本金國幣五萬圓(日本側參萬圓、滿洲國側貳萬圓)の合辦公司設立のことに決定し昭和七年十二月二十五日開原より受電點燈を開始せり。

一、資 本 金 (一〇三)

公稱資本金 國幣 五〇,〇〇〇圓  
 拂込資本金 同 三五,〇〇〇圓  
 興業費 同 三八,六八八圓

二、受 電 設 備 (一〇三)

變電所容量 一五〇KVA(五〇サイクル)

三、内外線設備 (九二)

電 壓 高壓三,三〇〇V 低壓 電燈一〇〇V 電力二〇〇V  
 電氣方式 三相交流三線式  
 電柱本數 三七五本  
 變壓器 二一台 一一〇KVA

四、需用狀況 (一〇三)

電 燈

定 額	燈	七〇八戸	一、三三三燈
從 量	燈	一九八戸	一、八六七燈

計	九〇五戸	三、二〇六燈
電 力	五戸	四三馬力

五、從 事 員 (一〇三)

專 務 取 締 役	千々和正彦
其 他	九人

九 新義州電氣株式會社

當社は所在地朝鮮に付本文を略す。

一〇 東方電業股份有限公司

本公司誕生の由來は昭和七年春海龍縣を中心とし朝陽鎮を加へたる海龍電氣公司の設立を計畫し滿電奉天電燈廠奉天省公署實業廳及地元商務會に於て種々折衝計畫したるに始まる。然して第一回滿電より第二回奉天電燈廠より調査員を派遣して瀋海沿線に就き調査せしめたる結果更に東豊を含め海龍朝陽鎮東豊を供給區域となし西安を發電地となす瀋海電業公司の設立計畫に變更さるゝに至る。其後事態の推移と共に滿電及奉天電燈廠兩者の協同事業となすに決定し第一回發起人會開催の結果更に名稱を東方電業股份有限公司となし滿電國幣五拾萬圓

奉天電燈廠國幣五拾萬圓出資する資本金國幣百萬圓の日滿合辦事業となすに決定せり。斯くて官廳に對する諸手續をなし昭和九年十一月公司設立許可事業及營業執照下附さるゝに至れり。

然して本公司成立第一に着手したるは西安縣電氣股份有限公司及山城鎮東興電氣股份有限公司の買収なり。

西安縣電氣公司是由來業績振はず經營困難の爲之が賣却處分をなす必要に迫られ居れり、會々西安炭礦は事變後大いに活氣を呈し炭礦自體に於て動力供給の必要に迫られ居り、前記電氣事業買収の意思を有せども之が買収資金を有せざるを以て奉天電燈廠は東方電業公司成立の上は同電氣事業を新公司に譲渡す可き事を條件とし西安炭礦に對し之が買収資金を貸與せり。然して炭礦に電氣事業經營經驗者無きを以て奉天電燈廠は之が委任經營を引受くる事となり。昭和八年十二月一日より奉天電燈廠は之が經營に當り昭和九年十一月東方電業公司成立と同時に同公司奉天電燈廠に代り委任經營を行ひ今日に至る。

山城鎮東興電氣公司も經營不振にして兼ねてより事業賣却の意思あり滿電との間に譲渡交渉ありたれども交渉成立に至らざりしが會々東方電業公司設立さるゝに及び同公司に於て買収せり。

以上の如く東方電業公司成立すると同時に兩公司を買収し西安に本店を置き之を中心發電

地となし山城鎮海龍を支店朝陽鎮東豊には營業所を設置せり。尙磐石電燈公司を買収し引續き  
電業會社清原營業所の譲受けを計畫中なり。

斯くの如く東方電業公司是西安東豊山城鎮清原海龍朝陽鎮及磐石と奉吉全線に亘り一大電  
氣プロックを確立せんとせり。

一、資 本 金

公稱資本金 國幣 一、〇〇〇、〇〇〇圓  
拂込資本金 同 五〇〇、〇〇〇圓

二、發電所設備 (一〇三)

西安發電所

發 電 機

製作者三菱 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數三、〇〇〇回 容  
量一、四〇〇KW 台數一基  
製作者B.T.H. 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數三七五回 容  
量一六〇KW 台數一基  
製作者メツシエル 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數六〇〇回  
容量四八KW 台數一基

汽 罐

製作者 種類三相交流 電壓二、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數三、〇〇〇回 台數一基  
製作者B & W 汽壓一〇 加熱面積二、五〇〇平方呎 馬力二七〇 台數一基  
製作者タクマ 汽壓八 加熱面積七〇〇平方呎 馬力一〇〇 台數二基  
製作者B & W 汽壓一二 加熱面積 平方呎 馬力三〇〇及三五〇 台數二基

汽 機

製作者三菱 種類スタータルタービン 廻轉數三、〇〇〇回 容量一、四〇〇KW 台數一基  
製作者ベリス 種類豎型複式 廻轉數三七五回 馬力數二七五馬力 台數一基  
製作者ベリス 種類豎型複式 廻轉數六〇〇回 馬力數九五馬力 台數一基  
製作者 種類タービン 廻轉數三、〇〇〇回 容量一六〇KW 台數一基

山城鎮發電所

發 電 機

製作者B.T.H. 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數三七五回 容  
量一六〇KW 台數一基

汽 罐

製作者B & W 汽壓一〇 加熱面積二、六八〇平方呎 馬力二七〇 台數一基

各 説

汽 機

一七六

製作者ベリス 種類堅型複式 廻轉數三七五回 馬力數二七五馬力 台數一基

三、送電線設備 (一〇三)

區 間 西安—東豊—沙河口

沙河口—山城鎮

沙河口—海龍—朝陽鎮

電 氣 方 式 三相交流三線式 二二〇〇〇V 五〇サイクル

互 長 一三三籽 一回線

電 柱 木柱一、九六五本

四、需用狀況 (一〇三)

西 安 本 店 (東豊を含む)

定 額 燈 一、〇〇二戸 四、八〇八燈

從 量 燈 四〇九戸 二、二七九燈

計 一四一一戸 七、〇八七燈

電 力 一戸 三七〇KW

海龍支店 (朝陽鎮を含む)

定 額 燈 三一〇戸 二、三九七燈

從 量 燈 三五八戸 一、六五〇燈

計 六六八戸 四、〇四七燈

山城子支店

定 額 燈 一、二三七戸 二、八四九燈

從 量 燈 八〇戸 一、五三五燈

計 一二一七戸 四、三八四燈

總 計 三、二九六戸 一五、〇一八燈

尙今回買収せる磐石電燈公司是昭和九年五月當地官民が土地發展保安及警備を目的として  
企業せるものにして許可指令を同年十一月九日下附されたるものなり。

一、發電所設備

發 電 機 製作者GEC 種類三相交流 電壓二、三〇〇V 周波數五〇 容量

五〇KW 台數一基

原 動 機 製作者リンコルン 種類吸入瓦斯發動機 馬力數八五馬力 台數一基

二、内外線設備

電 壓 高壓二、三〇〇V 低壓二二〇V—一一〇V

電 氣 方 式 高壓三相三線式 低壓三相三線式單相二線式

各 説

一七七

各 說  
三、需用狀況  
電 燈 一、三〇〇燈

一一 綏中電燈股份有限公司

昭和七年地方官民の提唱に依り營口水道電氣株式會社との間に日滿合辦の形式に依り資本金國幣六萬圓の電業公司設立の協定を遂げ滿洲國政府の許可を得て施工、同八年二月十五日完成開業せり出資に就ては初め現地並營口水電各折半を豫定せしも金融上の都合に依り現地側の分參萬圓は奉天電燈廠代つて出資のことに變更さる。

一、資 本 金 (九二)

公稱資本金	國幣	六〇、〇〇〇圓
拂込資本金	同	六〇、〇〇〇圓
借入金	同	二、八四〇圓
興業費	同	六三、四六六圓

二、發電所設備 (二〇三)

發電機	製作者三菱電機	種類三相交流	電壓三、三〇〇V	周波數五〇	廻轉數四二八回	容量七五KW	台數一基
-----	---------	--------	----------	-------	---------	--------	------

原 動 機

製作者三菱神戸造船所 種類重油機關 廻轉數四二八回 馬力數一一三馬力 台數一基

三、内外線設備 (九二)

電 壓	高壓三、三〇〇V	低壓電燈一〇〇V	電力二〇〇V
電氣方式	三相三線式及單相二線式		
電柱本數	二五三本		
變壓器	一台 六五KVA		

四、需用狀況 (二〇三)

電 燈	定 額 燈	一五八戶	三七〇燈
	從 量 燈	一五二戶	一八二八燈
	計	三一〇戶	二、一九八燈

五、從 事 員 (九二)

代 表 者	溝口茂男
共 他	一二人

### 二 鳳城電業股份有限公司

當地電燈開設に就きては大正十年四月滿電の前身電氣作業所に於て計畫されたることありしも結局大正十四年四月支那側に於て資金を募り百KW發電機を設備せり。然るに負荷過小に失し前後三回に亘り料金値上を試みたるも成績依然振はざりしを以て昭和五年滿鐵に對し附屬地需用約三百五十燈に送電することを交換條件とし燃料炭の値下を要望せることあるも其の議遂に纏まらず。後資本金奉小洋十四萬五千九百九十五元を現大洋五萬元に改めたるが電壓の不同送電の不確實なる爲株主總會に依り商議委員三名を選び時局後滿電に折衝せしむるところありたるが交渉纏まらず、只滿鐵附屬地の需用に對し送電せり。

而るに當公司、當地商務會長、鳳凰城縣長參事官及安東電業公司の間に於て電業統制の見地より合辦の議起り新たに當公司与安東電業公司に於て資本金國幣五萬圓兩者折半出資の新會社を設立し新會社に於て鳳凰城電燈公司を買収する事に商談成立し實業部の認可を得て昭和九年十一月一日營業を開始せり。現在鳳凰城のみに電燈供給し需用燈數二千燈に達す舊設備たる百KW發電機は陳腐にして使用に耐へざるを以て滿電より電力を購入し今日に至る。

開業日尙淺く營業困難にして將來の發展性に乏しく且つ一中間驛に二事業並存するの不利益を擧げて附屬地内供給者たる滿洲電業會社との合併を希望する向あるやに仄聞す。

#### 一、資 本 金 (一〇・三)

公稱資本金 國幣 五〇〇〇〇圓  
 拂込資本金 同 五〇〇〇〇圓  
 興業費 同 六五〇〇〇圓

#### 二、内外線設備 (九・一)

電 壓 高壓三、三〇〇V 低壓電燈用一〇〇V 電力用二二〇V  
 電氣方式 三相三線式  
 電柱本數 二二五本  
 變壓器 二〇台 一〇〇KVA

#### 三、需用狀況 (一〇・三)

電 燈  
 定 額 燈 二四三戸 六〇五燈  
 從 量 燈 九七戸 一、一〇四燈  
 計 三四〇戸 一、七〇九燈

#### 四、從 事 員 (九・一)

總經理 王銘玉 副經理 白玉衡  
 其 他 一六人

### 一三 大同電氣株式會社

大正五年春時の公主嶺地方事務所長服部誠藏氏四平街出張所主任田中拳二氏竝に地方有志に依り計畫され同年八月三十日電氣事業經營許可願を關東都督に申請して許可せられたるも種々の事情のため一時中絶したり翌六年二月二十八日更に創立期限延期が許可せられたるも前記諸氏により更らに計畫進められ五月七日長春帝國領事館に設立登記をなし四平街電燈株式會社を設立したり當初資本金五〇、〇〇〇圓一千株内五百株を満鐵にて引受けしが大正十二年増資なし資本金三五〇、〇〇〇圓とせり。

大正六年十二月十一日直流機六〇KWを以て營業開始せるが經營宜しきを得たる爲毎期良好なる成績を挙げたるも歐洲戰亂の影響を蒙り諸物價騰貴し經營困難に陥りしたため大正八年料金値上を決定し漸く愁眉を開きたり間もなく大戰終了し財界沈衰炭價の値下、金利の低下、其他諸物價の下落を待ち従來の直流發電所を廢し大正十三年十月一六〇KW交流機を据付け、大正十五年十二月更に三〇〇KW交流發電機を増設し配電状態を良好にし供給を安全ならしめたり。大正十四年四洮鐵路局發電所の完成により一時營業成績に影響を受けしも機關庫の設置せられたると一般需用増加等により好轉を持し昭和二年晝間送電開始と共に電力の需用激増し昭和六年八面城官民の要望に應じ翌七年二月初より送電供給を開始、尙昭和七年八月には雙廟子に送電線を架設し該地竝に送電線沿線中間驛に點燈せり。之れより前昭和六年二月より發電

を休止し我社新京支店より所要電力を購入しつゝあり。

其後公主嶺電燈會社との間に、合併の議起り昭和八年四月之が實現を見資本金八拾五萬圓を以て大同電氣株式會社設立、四平街を本店所在地公主嶺を支店となしたり、昭和九年十月更に伊通に送電供給を開始せり。

#### 一、資 本 金 (一〇三)

公稱資本金	金	八五〇、〇〇〇圓
拂込資本金	同	六六二、五〇〇圓
積立金	同	二〇九、〇四一圓
興業費	同	六六九、二四〇圓(公主嶺二五六、四六五圓を含む)

#### 二、變電所設備 (一〇三)

##### 變 壓 器

四平街 製作者芝浦 種類單相	電壓二五四〇〇V	三、三〇〇V	周波數五〇	容量
五〇〇KV A 台數三基				
郭家店 製作者芝浦 種類單相	電壓四四、〇〇〇V	三、三〇〇V	周波數五〇	容量
五〇KV A 台數三基				

#### 三、送電線設備 (一〇三)

イ、八面城送電線(四平街—八面城)

各 説



各 說

一八四

亘長二五杆 回線數一 電壓一一〇〇〇V 周波數五〇 支持物木柱四九八本  
口、雙廟子送電線(四平街—雙廟子)

亘長三〇杆 回線數一 電壓一一〇〇〇V 周波數五〇 支持物木柱四八六本

四、內外線設備(一〇三)

電 壓 高壓三三〇〇V 低壓一一〇V

電 氣 方 式 三相三線式

線 路 亘 長 四平街 三二二杆

郭家店 六五杆

其 他 一六二杆

計 五四八杆

電 柱 本 數 四平街 九四〇本

郭家店 一九四本

其 他 四五二本

計 一五八六本

變 壓 器 四平街 一二五台 一〇六七五KV A

郭家店 一六台 一〇三〇KV A

其 他 二一台 一二三五KV A

計 一六二台 一二九四〇KV A

五、需用狀況(一〇三)

電 燈 定 額 燈 三七〇六戶 四八六八燈

從 量 燈 一六三五戶 一四八八八燈

計 五三四一戶 一九七五六燈

電 力 一 般 四二戶 六一八五馬力

特 別 三戶 四七五馬力

計 四五戶 一〇九三五馬力

電 熱 二三一戶 三三九五KW

六、從 事 員(一〇三)

專 務 取 締 役 富田登二

其 他 職 員 七人

備 員 二一人

各 說

一八五

其他 一四人  
計 五二人

次に大同電気公主嶺支店は明治四十四年當時の公主嶺滿鐵經理係主任大河隆光氏により計畫せられたる事ありしも實現するに至らざりしが明治四十五年才賀電気商會を中心とする有志により、滿洲電気株式會社(開原をも含む)設立企畫せられ關東都督府の事業經營許可を受け計畫大に進捗したるも中心たる才賀商會の破産財界の不況等により大正三年三月公主嶺電気事業は一時中止し開原のみ實現の止むなきに至れり。其後大正五年三月事業經營許可期間満了と共に遂に計畫放棄せられたり然るに同事業の實現に熱心なる公主嶺有力者相集り改めて事業計畫の目論見をなし滿鐵地方事務所長服部誠藏氏の斡旋により滿鐵幹部の諒解を得て、愈々電燈會社設立の計畫を樹て同年七月關東都督より設立認可を受け資本金五萬圓一千株の内三百株は發起人、五百株は滿鐵残り二百株を公募して八月十八日長春領事館に設立登記をなし茲に公主嶺電燈株式會社を設立せり。

大正五年十二月二十九日六〇KW發電所竣工し試験點火の上大正六年一月十二日より營業を開始し、以來順調なる業績を示し昭和三年末には郭家店に支店を設置し七五KW發電機を据付け昭和四年一月一日より供給を開始せり。而して昭和四年末新京、公主嶺間送電線竣工するや之れより受電することゝ成り發電所を閉鎖せり。其後四平街電燈株式會社との間に合併の議起

り昭和八年四月合併成立し大同電気株式會社創立さるるや其の支店を成る。

一、資 本 金 (一〇三)

興 業 費 金 二五六、四六五圓

二、變 電 所 設 備 (一〇三)

變 壓 器

製作者芝浦 種類單相 電壓四四、〇〇〇V、三、三〇〇V 周波數五〇 容量二五〇K

V A 台數三基

三、送 電 線 設 備 (一〇三)

伊 通 送 電 線 (公主嶺伊通間)

亘長四八杆 回線數一 電壓二二、〇〇〇V 周波數五〇 木柱

四、内 外 線 設 備 (九三) (伊通を含む)

電 壓 高壓三、三〇〇V 低壓一一〇V

電 氣 方 式 三相三線式

線 路 亘 長 四二九杆

電 柱 本 數 一二八五本

電 壓 器 九六台 六三三五KV A

五、需用狀況 (一〇三)(伊通を含む)

電 燈	定 額	二四三二戸	五、九一五燈
電 燈	從 量	一二〇一戸	一三、〇五九燈
電 計		三、五三三戸	一八、九七四燈
電 力		三七戸	三七六馬力
電 熱		一〇七戸	一三三KW

五、從 事 員 (一〇三)

專 務 取 締 役	富田登二
支 配 人	山本幸雄
其 他	職員 三人
	傭員 一九人
	其他 一二人
	計 三四人

一四 遼源電氣股份有限公司

大正三年張忠義氏は芝罘より足立喜藏氏を帶同來鄭し天合義鐵工廠を開設旁ら五KW直流發電機を以て試験的に附近商戸に電燈約二百燈を供給したるところ其の成績良好なりしを以

て更めて電氣公司設立を計畫するに至れり。越へて大正六年十月張忠義氏は鐵嶺電燈局より電燈建設資金拾參萬五千圓の融通を受ける諒解を得たるに因り株式を募集し奉小洋拾貳萬元の引受を俟つて大正七年一月遼源華興電氣股份有限公司を設立せり。之と同時にシーメンス二百四十KW交流發電機を奉天電燈廠より譲受け建設に着手し、同年九月之が竣工を見たるに依り電燈約三千五百燈の供給を開始せり。茲に於て鐵嶺電燈局より人を派し技術並經營に任せしむることとなり、需用漸次増加するに至りたれども、公司の運用宜しきを得ず業績概ね不振の一路を辿りたり。

大正九年優先株(奉小洋八萬元合計資)を募集し借款殘額の償還に充當せむとせしも、僅か一萬參千六百元の引受ありたるに過ぎず。翌年一月には電燈料金一部の値上を試みたるも、幾許もな

く奉票市況は漸次安値を唱へ、公司の財政亦收拾し得べからざる窮境に陥りたり。昭和二年三月満電は鐵嶺電燈局の公司に對する債權を滿鐵より繼承したるに依り根本的に公司經營の改善を圖らむとして能率低劣なる従來の發電機に代ふるに容量三百KWのダイヤル發電機(富士電機製作)を以てし之が建設資金拾萬圓を融通すると共に社員を派して經營の一切に任せしむることとせり。

越えて昭和三年三月奉票暴落を理由として電氣料金を現大洋建に變更し公司經營上一段の安定を加ふることを得たと共に翌年二月には前記ダイヤル發電機の建設も完成し、業績の好

轉を豫想せられしも偶々銀價の暴落に禍され事業更生の出鼻を挫かれたり。然れども滿電としては事業助成の初志を貫徹すべく地方債務を肩替し、當事者に勸めて内に經費の節約を圖り對外的には猶多分の餘裕を有する縣城の需用を喚起せしめつゝありしが滿洲事變勃發と共に四洮局への電力供給銀價の高騰及一般需用の増加により業績著しく好轉しつゝあり。尙當公司は三江口に電氣供給すべく送電線亘長二四杆電壓三、三〇〇V變壓器容量二〇KV Aに依り昭和七年十月十五日より供給を開始せり。超えて昭和九年五月當公司の懇願により滿電は滿日合辦會社に改組なすべく計畫し九月十五日の當公司株主總會にて解散を決議し遼源電氣股份有限公司としての發起人を選任せり。

一、資 本 金 (八、二二)

公稱資本金 國幣 二〇〇,〇〇〇圓  
 拂込資本金 同 一三三,六〇〇圓  
 借 入 金 同 二六〇,七六一圓  
 興 業 費 同 三一九,二三四圓

二、發 電 所 設 備 (一〇、三)

發 電 機 製作者富士電機及S.S 種類三相交流 電壓二三〇〇V 周波數五〇 廻轉數二五〇

汽 及三七五回 容量三〇〇及二四〇KW 台數二基

汽 罐

製作者タクマ及B & W 汽壓一〇〇封度 馬力數一二〇及六〇馬力 台數三基(タクマ一基 B & W二基)

汽 機

製作者富士電機 種類ディーゼル六汽筒 廻轉二五〇回 台數一基  
 製作者B.M 種類堅型複式 廻轉數三七五回 台數一基

三、内 外 線 設 備 (七、二)

電 壓 高壓二三〇〇V 低壓一〇〇V  
 電 氣 方 式 三相三線及單相二線式  
 電 柱 本 數 六二二本  
 變 壓 器 六七台 三五〇KV A

四、需 用 狀 况 (一〇、三)

電 燈 七七七戸 二二一八燈  
 定 額 燈 二九九戸 四七三四燈  
 從 量 燈  
 各 説

計

一〇七六戸

六、八五二燈

電

力

六戸

九八馬力

五、從 事 員 (一〇三)

總理

張忠義

協理

蘇兆榮

共

他

一六人

一五 延吉電業股份有限公司

延吉市街に電燈を供給せむとする計畫は、嚮に頭道溝の巨商武樹勳氏が龍井村は大興電氣股份有限公司を設置せる當時傳へられたるころなるも同公司の業績は其の後振はず龍井村全市に供給したる上更に送電する餘裕なかりしたため、一時沙汰止みとなりたり。

然るに龍井村商埠局長高志遠氏は退職の後再び之を計畫するところあり、資金調達のため昭和五年秋吉林長春方面に赴き同地方の資本家に對し運動せる結果、故延吉道尹陶彬氏の近親に當る有力者某氏より約金五萬圓を出資せしむることゝせり。尙龍井村の巨商裕源東の出資者たる茹士海氏も亦幾分の出資に應諾すべしとのことにて、議を纏めて工事に着手すべしと傳へられたり。

然るに昭和六年十二月延吉民會長より當地電氣事業開設に關し滿電に援助を求むるところあり、同社過半出資を條件とし事業に参加する旨の意志を表示す越えて七年一月延吉副領事より同伴に關し滿電の意志を確め來りしかば前同様の回答をなしたり。

其後延吉民會長より再三滿電代表派遣方をうながし來りたれば軍統治部の諒解を得て社員を出張せしめしが既に是より前民會長は雄基電氣會社の支援に依り假事務所を設け受付開始中なりしたため協定圓滿に進行せず一時中斷の形となりたり。

昭和八年四月滿鐵龍井村派出所長より「延吉民會長は雄基電氣との提携に依り事業を開始すること極めて困難なるを知り遂に計畫を完全に中止するに至れり。貴社單獨にて事業を始め新國家の斯業統一の際之を讓渡することゝし至急開設されべき旨延吉領事よりの希望もあり且延吉市政籌備處長も滿電單獨經營可なる旨の言明ありたれば至急準備され度しとの申出あり依て直に會社設立認可申請案を送付し其後社員を派し、具體的に設立の準備に着手せり、同年五月雄基電氣より協同方申出ありたるも既に計畫進行せる今日なれば資本關係其他に就て計畫變更困難なる旨を述べ之を拒絶せり同年八月吉林省公署より「延吉縣には大興聚盛永兩電氣事業あるを以て隣接地に新事業を認可する必要なし」との理由にて前に提出中の願書却下されたり。其後延吉縣々城内に未開業乍ら東明電燈公司あるを發見せり。東明電燈公司是昭和三年梁榮宸氏が武樹勳より營業權を讓受け計畫せるものにして既に登記済なるも、經營能力無く今日に及べるものなり。是に於て省政府も新に願書の提出あれば認可すべしとの言明を爲すに至り新願書提出、同十月三日實業部より認可指令ありたり。

之より先滿洲國政府の認可は種々の關係上相當の日子を要する模様なれば斯くては結氷の爲工事不可能となる恐れあるを以て認可前工事着手の黙認を得、九月社員を現地に派遣施工中の處昭和八年二月二十六日延吉發電所完成し、三月三日點火するに至れり。尙當公司は近隣圖們及朝陽川官民の要望により該地に電氣を供給すべく支店を設置し、圖們は對岸朝鮮南陽會寧電氣會社より受電、朝陽川は直接當公司より送電せり。尙開山屯は朝鮮側より受電し、明月溝にはデゼル發電所を建設何れも昭和九年末より營業を開始せり。

一、資 本 金 (九.九)

公稱資本金 國幣 二〇〇,〇〇〇圓  
 拂込資本金 同 二〇〇,〇〇〇圓  
 興業費 同 二九三,六六〇圓

二、發電所設備 (一〇.三)

延吉發電所

發電機

製作者芝浦 種類三相交流 電壓三,三〇〇V 廻轉數三七五回 周波數五〇 容量  
 三〇〇KW 台數一基  
 汽 罐

製作者B & W 汽壓一〇 傳熱面積五二〇平方米 蒸發量四,六五〇疋 台數二基

汽 機

製作者ベリスモリコム 種類豎型複式 馬力數四四〇馬力 廻轉數三七五回 台數  
 一基

圖們受電容量一五〇KW

明月溝發電所

發電機

製作者富士電機 種類三相交流 電壓三,三〇〇V 周波數五〇 廻轉數三三三 容  
 量七五KW 台數一基

原 動 機

製作者ズルザー 種類デゼル 廻轉數三三三 馬力一〇〇 台數一基

三、送電線設備 (一〇.三)

電 氣 方 式 三相三線式 電壓三,三〇〇V 亘長延吉朝陽川間一一.五杆

四、内外線設備 (九.九) (圖們朝陽川ヲ含ム明月溝ヲ不含)

電 壓 高壓三,三〇〇V 電燈用一〇〇V 電力用二〇〇V

電 氣 方 式 三相三線及單相二線

各 説

各 説

電柱本數 一〇七一本

變壓器 八八台 四七六KVA

五、需用狀況 (一〇三)

電 燈

イ、延 吉 (朝陽川ヲ含ム)

定 額 燈 五二九戸 三、四六二燈

從 量 燈 三六六戸 三、四一七燈

計 量 燈 八九五戸 六、八七九燈

ロ、圖 們 (開山屯ヲ含ム)

定 額 燈 一二六五戸 三、六〇二燈

從 量 燈 四八〇戸 五、二四五燈

計 量 燈 一、七四五戸 八、八四七燈

ハ、明 溝

定 額 燈 二八八戸 六七七燈

從 量 燈 四三戸 四二二燈

計 量 燈 三三一戸 一、〇九九燈

ニ、合 計

定 額 燈 二、〇八二戸 七、七四一燈

從 量 燈 八八九戸 七、〇八四燈

計 量 燈 二、九七一戸 一六、八二五燈

電 力

イ、延 吉 九戸 六〇馬力

ロ、圖 們 一〇戸 一六六馬力

ハ、明 溝 二戸 一〇馬力

計 二一戸 二三六馬力

六、從 事 員 (九二)

專務董事 牟禮勝司 主任技術者 永野義男 圖們主任 長田和義

共 他 四十人

一五 敦化電業股份有限公司

當地に於ける電氣事業の計畫に就きては始め吉林興業土木公司重役韓氏竝峯旗良充氏が東亞土木企業會社を通じて滿電に之が調査方を委囑せり依て昭和二年七月滿電は人を派し現地調査せしめたる結果現在のところ人口猶少きも辛うじて採算の見込たつものさ確むることを

各 説

得たり。

次で昭和三年二月に至り鐘岳氏は敦化縣陸軍團長王林氏及同縣知事並商務會方面の諒解を得人を介して滿電に之が建設資金の融通方を申出でたるを以て直ちに投資條件の審議を進むることとせり。

此の間發起人側は愈々公司(公興電氣公司)設立の準備に着手し定款を擬定して株式募集に奔走するところありしが其の後何等の交渉もなく全く消息を絶つに至れり。

越えて昭和四年三月同地商務會長萬茂森氏資金調達のため吉林に赴き張吉林電話局長に諮りたる結果張局長より長春和登洋行に所要資金額機械價格の見積等を依頼したることあり。

爾來萬會長は王團長等と共に改めて敦化萬合電燈廠(資本金九萬圓、程度の合資會社)の設立を計畫し吉林慎昌洋行との間に建設請負の商談を纏め得たれども資金の調達思ふに任せず已むなく暫く之が起工を見合せたり昭和五年三月に於ける其の筋の情報に依れば萬會長は一時滿鐵より借款して本計畫を遂行すべき意圖あるを仄めかし居たるも元來小心なる同會長は支那官邊側の外資輸入に對する態度を顧慮して荏苒之が交渉を進め得ず然れども後安東縣丹華公司孫總理と種々商議したる結果事業開設後漸次事業の擴張をなすべき方針の下に他國の援助を藉らず資本金現大洋貳萬元の合資會社を設立し電燈約二千五百燈の需用に應ずべく七年春解氷匆匆工事に着手すると稱し居たるも時局のため沙汰止みとなりたり。

越えて昭和七年八月敦化在住官民より人を介し滿電に治安維持並警備の必要上至急電燈開設方要望ありたるを以て調査の結果多少の犠牲を忍ぶとも點燈する必要ありと認め先願者と妥協し監督官廳の諒解の下に工事に着手八年二月七日竣工供給を開始せり。

一、資 本 金 (一〇三)

公稱 資本金	國 幣	四〇〇,〇〇〇圓
拂込 資本金	同	二五〇,〇〇〇圓
興 業 費	同	二九一,八八一圓

二、發 電 所 設 備 (一〇三)

發 電 機

製作者三菱電機	種類三相交流	電壓三,三〇〇V	周波數五〇	廻轉數四二八回	容量七五KW	台數一基
製作者明電社	種類三相交流	電壓三,三〇〇V	周波數五〇	廻轉數三〇〇回	容量一五〇KW	台數一基
製作者三菱神戸造船所	種類デール	廻轉數四二八回	容量一一三馬力	台數一基		



各 説

1100

製作者ズルザー 種類ディーゼル 廻轉數三〇〇回 容量 台數一基

三、内外線設備 (一〇三)

電 壓 高壓三三〇〇V 電燈用一〇〇V 電力用二〇〇V

電 氣 方 式 三相三線及單相二線式

電 路 互 長 三一杆

電 柱 本 數 六一二本

變 壓 器 二六台 一一〇KVA

四、需用狀況 (一〇三)

定 額 燈 六四二戸 一、三四五燈

從 量 燈 四二五戸 四〇二七燈

計 一〇六七戸 五、三七二燈

五、從 事 員 (一〇三)

專務董事 益田清久 主任技術者 鷲田俊一

其 他 二〇人

敦化電業公司蛟河支店

蛟河拉法新站

電源を奶子山炭礦發電所に仰ぎ、之より送電線を蛟河拉法新站到架設し昭和八年十二月二日より供給を開始せり、業態概ね次の如し。

一、送電線設備

送電線互長 二九杆

送電線電壓 三三〇〇V(五〇サイクル)

二、需用狀況

定 額 燈 三二八戸 五七八燈

從 量 燈 二〇四戸 二七二四燈

街 燈 一三二燈

計 五三二戸 三、四三四燈

電 力 四戸 一九五馬力

三、從 事 員

支 店 長 成 瀬 茂

外 一 二 名

一七 克山電業股份有限公司

昭和二年二月土地の資本家楊守謙氏に依り電燈廠設立せられたるも事故續出し經營一年な

各 説

1101

らずして休業せり然るに同氏は時の省長常蔭槐氏の知遇を受けたるを以て電燈廠再興の爲に同省長より哈大洋貳拾貳萬元の補助を受くる諒解の下に新たに發電機を注文し電氣供給の旁ら製粉業を兼營せむとせる折柄省長の死去に逢ひ進退窮して日資を求めたることあり滿電に於ても之に對し善處の途を講ぜむとしたれども、投資の確實を期し難かりしを以て右要求を容れざりき然るに一方注文したる機器は既に到來したるに依り、楊氏は百方奔走して漸く資金を得、昭和五年五月より運轉を開始せり。此の間昭和三、四年頃供給燈數二千燈に達せしことありたるも新機器増設前後より市況不振及設備不完全の爲需用漸減し業績頓みに振はず直流百二KW及二十五KW發電機を以て僅々七百六十六燈を供給する状態にて毎月數百元の損失を招くに至れり斯かる状態にては到底經營の持續不能にて滿電に之が救済方を求むるところありたるを以て八年三月國幣貳萬圓を貸付け委任經營をなし連山關營業所の五〇KWディーゼルを移設し更に瓦房店電燈熊岳城支店の七五KWディーゼンを移設し政府の口滿合辦の方針に従ひ九年八月克山電業股份有限公司の成立を見たり、資本金五萬圓興業費七萬圓なりがて十二月二十七日には北安鎮訥河の合併許可指令ありたれば資本金四十萬圓拂込二十六萬圓に増資せり。將來泰安鎮海倫をも供給區域となす豫定なり。

一、發電所設備

發電機

製作者ウエスティングハウス 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 容量七五KW

KW 台數一基

製作者日立 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 容量七五KW 台數一基

原 動 機

製作者CEMÉ 種類セミディーゼル 廻轉數二八〇回 容量七〇馬力 台數一基

製作者MAN 種類ディーゼル 廻轉數五〇〇回 容量一一三馬力 台數一基

二、需用狀況 (一〇三)

電 燈

定 額 燈 三二八戸 一〇一三燈

從 量 燈 八一戸 一〇八九燈

計 四〇九戸 二、一〇二燈

三、從 事 員

代 表 者 愛甲直鋼

共 他 一六名

納 河 支 店

昭和四年頃土地の王氏外二三氏出資のもとに電燈廠開設せるも事變前後より匪害により停

止せり。治安回復と同時に實業廳日本軍隊縣參事等の懇懇により克山電業に於て之が舊汽機を買収して實業部の許可を得發電所を新設し營業を開始せり。

發電機

製作者 S S 種類 三相交流 電壓 三三〇〇 V 周波數 五〇 容量 三七五 KW 台數 一

基

原 動 機

製作者 クロスレー 種類 デーゼル 馬力 四八五 台數 一基

燈 數 一二二五燈

北安鎮支店

當地駐屯の日本軍隊兵營に要する電燈點火を軍の依頼により八年十二月四日より供給開始せり。當地は北黑線の分岐點にして同線の工事進捗に伴ひ人口の増加は市民の點燈要望歎願となり、一ヶ年内に克山電業と合併の條件にて九年一月二十九日實業部認可の下に市中に點燈せり。其後克山電業会社に讓渡、克山電業公司是北安鎮支店として經營しつゝあり。

一、發電所設備 (一〇三)

發電機

製作者 芝浦 種類 三相交流 電壓 三三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 四二八回 容量

六五 KW 台數 二基

原 動 機

製作者 新潟 種類 デーゼル 馬力 一〇〇馬力 廻轉數 四二八回 台數 二基

二、需用狀況 (二〇三)

定 額 燈	三〇五戸	八〇七燈
從 量 燈	三〇一戸	四、一七六燈
計	六〇六戸	四、九八三燈
電 力	六戸	二六馬力

一八 赤峰電燈廠

大正十年邦人三原作一氏滿鐵より資金拾五萬元の融通を受け、丁文化氏外六名との間に借款契約を締結し、同年八月三十日外資の介在せざるを條件として電燈廠設立方許可を得たるも滿鐵より交付されたる拾五萬元日金換算拾六萬貳千貳百四拾圓は調査費運動費の名目の下に浪費され、同十二年九月發電所の建物煙突の竣成を見たるのみにて既に資金の枯渴に達着したるを以て同十三年六月滿鐵に對し更に貳萬元の追加借款を申込みたるも滿鐵は之を拒絶したり。

然るに同十四年八月熱河都統より發起人に對し外資介在を理由として該公司の資産を沒收

すべき旨の公文發せられたるを以て、三原氏は滿鐵と協議の上貳萬元を以て當時の赤峯開埠局長黃振石氏に一切を讓渡せり。

其の後丁樹森氏なるもの年餘雨露に曝されたる機器を整備し、且熱河興業銀行より資金の融通を受け漸く同十五年八月營業を開始せり。

爾後年々缺損を續けたるも昭和六年四月當時の廠長丁耀宗氏赤峯興業銀行經理營業業務の改善を行ひ同七年に於ては壹千四百餘元の利益を見るに至りたり。

熱河聖戰の後滿洲中央銀行は赤峯支行に命じ暫く本事業を管理せしめつゝありしが昭和八年五月七日關東軍は當分滿電に之が委任經營方指令するところありたれば新規需用に應ずる爲ディーゼル發電機百KW一台の増設し更に三百KW一台増設中にして之が所要資金を滿電は投資せり、將來合辦會社設立のもとに之が經營中なり。

一、資 本 金 (九・二)

公稱資本金	國幣	一四〇,〇〇〇圓
拂込資本金	同	一四〇,〇〇〇圓
借入金	同	二九九,四〇〇圓
興業費	同	一六〇,八四二圓

二、發電所設備 (八・九)

發電機

製作者WH・種類三相交流 電壓二,三〇〇V 周波數五〇 廻轉數二一四回 容量六〇KW 台數一基

汽 罐

製作者クルンエンドウエートナ 汽壓一〇〇封度 加熱面積一,二〇〇平方呎 台數一基

汽 機

製作者アメスカイロンワリス 種類橫型單汽筒 馬力數九〇馬力 廻轉數二一四回 台數一基

三、内外線設備 (八・九)

電 壓 高壓二,三〇〇V 低壓一一〇V

電 氣 方 式 三相三線及單相二線式

電 柱 本 數 二一〇本

變 壓 器 一八台 一一〇KVA

四、需用狀況 (九・二)

電 燈

各 説

各	定額	燈	五〇二戸	一四五三燈
從	量	燈	五三戸	一二四四燈
街		燈		二〇七燈
計			五五五戸	二九〇四燈

五、從事員 (一〇三)

代表者 吉田信  
其他 三〇人

一九 錦縣電氣股份有限公司

大正八年容量二百KW交流發電機を新設し、大正十四年に至り三百KW交流發電機を増設す  
資本金現大洋拾七萬壹千五百七拾元なり、昭和七年一月其の筋の依頼に依り電氣施設保持のた  
め滿電は社員を派遣して今日に至る、遼西開拓に連れ營業益々發展し昭和八年五〇〇KW一台  
増設せり次で九年吳氏所有株を奉天電燈廠買收す。

一、資本金 (八、二二)

公稱 資本金 國幣 一七一、五七〇圓  
拂込 資本金 同 一七一、五七〇圓  
借入 金 同 一〇七、七一八圓

興業費 同

三二、三一三圓

二、發電所設備 (一〇、三)

發電機

製作者 G.E. 種類 三相交流 電壓 二、三〇〇V 周波數 六〇 廻轉數 三、六〇〇回 容量  
二〇〇KW 三〇〇KW 及 五〇〇KW 台數 三基

汽罐

製作者 スターリング及 B & W 汽壓 二〇〇及一五〇封度 馬力數 二〇〇及一五〇馬力  
スターリング台數一基 B & W 台數二基

汽機

製作者 G.E. 種類 カーチスタービン 馬力數 二〇〇KW 三〇〇KW 及 五〇〇KW 廻  
轉數 三、六〇〇回 台數 三基

三、内外線設備 (八、二)

電 壓 高壓 二、三〇〇V 低壓 一、一〇V  
電 氣 方 式 三相三線式  
電 柱 本 數 八二七本  
變 壓 器 電燈用 六〇台 四一三KV A  
各 說

各 説

電力用 三八台 二六九KVA

二一〇

四、需用狀況 (一〇三)

定 額 燈	二八六戸	一、一九二燈
從 量 燈	二、三七九戸	二六、五八〇燈
計	二、六六五戸	二七、七七二燈
電 力	五二戸	四〇二馬力

五、從 事 員 (一〇三)

顧 問	谷保太郎
其 他	九八名

二〇 法庫縣電燈廠

本廠は昭和二年五月の創業にして始め故楊宇霆氏一族に依り股份有限公司の設立を企畫し一般の應募を期待せしも引受意の如く進まず結局故楊宇霆氏大半出資に歸せり。建物發電機汽罐等新式なれども運用宜しきを得ざる爲能率低下せり。三百五十KW交流發電機及其他の機器は殆んど總て奉天の英商安利洋行より購入せるものにして此の價格現大洋約三十萬元なりと聞く。而して股份有限公司に名を藉るも殆んど個人事業に均しく創立以來一回の株式總會も開かず決算報告もなき爲明確なる收支は不明なれども年々著しく缺損を續けつゝあり之が救済

方を奉天省公署實業廳を通じて奉天電燈廠に申込み、依つて同廠は實狀調査を行ないたる結果資金を貸與して高利負債を整理せしむると同時に奉天電燈廠の委任經營となすに決し昭和九年三月より之が經營の衝に當れり、同地方は比較的將來發展性乏しきことなれども委任經營後業績好轉し收支償ふに至れり。

一、資 本 金 (一〇三)

拂込 資 本 金	國 幣	三二〇、〇〇〇圓
興 業 費	同	三五〇、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (一〇三)

發 電 機

製作者メトロポリタンヴィツカー 種類三相交流 電壓二、三〇〇V 周波數六〇 廻轉數三六〇回 容量三五〇KW 台數一基

汽 罐

製作者B & W 汽壓一五〇封度 加熱面積一七八〇平方呎 台數一基

汽 機

製作者プロヘットリンデイー 種類豎形複式 馬力數四五〇馬力 廻轉數三六〇回 台數一基

各 説

二一一

各 説

三、内外線設備 (一〇三)

電 壓 二三〇〇V 低壓電燈一一〇V 電力二二〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 四〇四本

變 壓 器 五二台 四一六KV A

四、需用狀況 (一〇三)

電 燈

定 額 燈 五五三戸 一〇二一燈

從 量 燈 三五二戸 三三一六燈

計 九〇五戸 四三三七燈

電 力 一一戸 一七〇馬力

五、從 事 員 (一〇三)

經 理 狹間富貴

其 他 三七人

一一二

二一 農安電業股份有限公司

昭和二年土地の有力者趙錫點、宋景福兩氏により農安電燈廠設立せられたるが昭和四年董仲洙氏主となり之を哈洋七萬元にて買収し翌五年三萬元を増資し資本金哈洋拾萬元の株式組織にて經營しつゝありしも、從來より盜電多く業績振はざる折柄、今回の滿洲事變にて經營頓に悪化し、加へて昭和七年三月發電所の原動機破損し一時供給を中止し、其後辛じて經營を持続しつゝありしも最近再び休止せり。其後滿電に對し救済を求むるところありたれば滿電に於てこれが委託經營をなし九年七月十七日滿合辦農安電業股份有限公司の設立契約をなし發電機の修理に着し十一月官廳手續を了し十二月二十六日點燈せり。

一、資 本 金 (一〇三)

公 稱 資 本 金 國 幣 一〇〇,〇〇〇圓

興 業 費 同 八七,〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (一〇三)

發 電 機

製作者 S.S. 種類 三相交流 電壓 五,二五〇V 周波數 六〇 廻轉數 七五〇回 容量 六

二KW 台數 一基

汽 機

各 説

一一三

各 説

二二四

製作者ウルフ 種類ロコモビル 汽壓一二 容量一三五馬力 台數一基  
三、内外線設備(八九)

電 壓 高壓五、二五〇V 低壓二二〇V

電 氣 方 式 交流三線式

電 柱 數 二四〇本

變 壓 器 五台 五〇KV A

四、需用狀況(一〇三)

電 燈

定 額 燈 二七八戸 五九四燈

從 量 燈 一五六戸 一九四一燈

計 四三四戸 二、五三五燈

五、從 事 員(一〇三)

代表者 西正之 外十四名

### 二二 滿洲里市電燈廠

本廠は明治三十九年の創設に係り日本側を除きたる滿洲電氣事業の嚆矢たり。現に滿洲里市の經營にて獨立會計に依り市内に電燈約五千燈並電力若干を供給する外電氣器具販賣を營み

つゝあるも相當缺損を示しつゝあり。市自治會としては巨額の負債を有するため數年前市會に於て之が事業を賣却し償還に充つるに如かずとの意見出で支那人側亦之に策動せしも事成らずして終れり。昭和七年六月人を介し滿電に援助を求むるところありたるを以て滿電は調査せしが、偶々蘇炳文の叛亂あり交渉頓挫せり其後先方より再度交渉ありたるを以て昭和八年二月再調査の結果援助することに決し、資本金國幣十四萬圓全額拂込の滿洲里電業股份有限公司を設立することに八年七月市との間に協商成立せり、尙公司設立迄の過渡的辦法として發電所改修費を貸與し其の條件として滿電より社員を派遣し業務の監督指導に當らしめつゝあり。

一、資 本 金(九・二二)

興 業 費 國 幣 一六五、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備(九・二二)

發 電 機(第一號機器)

製作者アリスチャルマー 種類直流分捲 電壓二二〇V 廻轉數六〇〇回 容量一〇

〇KW 台數二基

汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル 馬力數二〇〇馬力 廻轉數一八七回 台數一基

發 電 機(第二號機器)

各 説

二二五



各 説

製作者 S・S・種類 直流分捲 電壓 二二〇 V 廻轉數 二、二五〇 回 容量 一七・六 K W 台  
數 二基

汽 機

製作者 ウルフ 種類 ロコモビル 馬力 數 四五馬力 廻轉數 二二五 回 台數 一基

發 電 機 (第三號機器)

製作者 ベーシ 種類 直流分捲三線式 電壓 四四〇 V 容量 一〇・二 K W 台數 一基

汽 機

製作者 ウルフ 種類 ロコモビル 汽壓 一二 加熱面積 二、五〇〇 平方尺 馬力 一八〇

台數 一基

三、内外線設備 (九・二二)

電 壓 二二〇 V 及 四四〇 V

四、需用狀況 (一〇・三)

定 額 燈	四九六戸	八三一燈
從 量 燈	六〇一戸	五、二七六燈
電 計	一、〇九七戸	六、一〇七燈
電 力	一一戸	一〇八馬力

五、從 事 員 (一〇・三)

廠長 孟憲惠 顧問 新妻新次郎 他 三十七名

三三 下九台電燈廠

土地の人杜瑞霖氏等相謀り、合資組織に依り光大電燈公司を設立し、大正十五年一月營業を開始せり。資本金國幣五萬圓にして主として杜氏の出資に係る現に五十四 K W 並百五十五 K W 直流發電機各一基を設備す。昭和五年春滿電は當公司より運轉資金の融通を求められしことあるも、慎重調査の結果投資確保の見込なきものとして之が要求を斥けしが、滿洲事變後再び融通方交渉ありたるを以て調査せしも未だ彼我の商量成立するに至らざりき。

最近再び滿電に救済を求むるところあり社員を派遣再調査し九年十月一日資本金十萬圓滿電出資六萬圓の合辦公司設立契約及委託經營契約を締結なし十年一月九日下九台送電線竣工なし京吉送電線より送電せり。

三、内外線設備 (一〇・三)

電 壓 高壓 三、三〇〇 V 低壓 二二〇 V 及 一一〇 V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 一九一本

四、需用狀況 (九・二)

各 説

電 各 說

定 額 燈	三一四戸	七六二燈
從 量 燈	一三二戸	一二七七燈
街 燈		一八四燈
計	四四六戸	二二二三燈

電 力 二戸 一六五馬力

五、從 事 員 (九・二)

經 理 杜 瑞 霖  
其 他 二三人

二四 依蘭電業股份有限公司

當地に於ける電氣事業は、昭和七年哈爾濱埠頭區新城大街大信號に於て設立を計畫せしが水害に依り施工頓挫せり其後昭和八年九月北滿電氣株式會社と現地軍部地方官民との間に日滿合辦公司設立の議纏り、同年十月十七日哈爾濱より諸機械を現地に發送の上工事に着手し、十二月五日据付を完了し營業を開始せり。

依蘭は人口三萬餘にして内日本人四百餘人なれ共夏期に多く冬期商人の引上ぐるもの多く城内殆んど商人と役人にして商業地區たる觀あれど工業方面も漸次見る可きものあり中には

自家用發電機五KWを有する製粉工場あり將來の需用膨脹に期す可きものありと思わる、營業開始以來電燈料金徵收狀況等も九五%を示し九年十一月の決算に於て八、〇〇〇餘圓の純益を上げ營業狀態極めて良好なり。

一、資 本 金 北電出資六五、〇〇〇圓一般出資二五、〇〇〇圓

公稱資本金	國幣九〇、〇〇〇圓(全額拂込)
興業費	同 五六、五四九圓
内譯發電所關係	同 四二、〇〇〇圓
電線路	同 一二、六八七圓
計器工具	同 一、八六二圓

二、發 電 所 設 備 (一〇・三)

發 電 機 製作者ラフンボーベリ社 種類三相交流 電壓三五〇〇V 容量七五KVA 廻轉數七五〇 周波數五〇 台數一基  
勵 磁 機 (發電機直結)  
電壓七〇V 電流二五A

汽 各 說

各 説

二二〇

製作者不明 種類ロコモビル 汽壓一二四 火床面積一二〇平方米 台數一基  
汽 機

製作者不明 種類ロコモビル 容量八五馬力 廻轉數二一〇 汽壓一二 台數一基  
三、内外線設備

電 氣 方 式 三相交流三線式 電壓配電三五〇〇V 周波數五〇

供 給 電 壓 電 燈 一〇〇—一〇V 單相

動 力 二〇〇—二二〇V 三相

電 柱 本 數 二三六本

四、需用狀況(九二)

電 燈

定 額 燈 三三七戸 七八六燈

從 量 燈 二一五戸 二四五九燈

計 五五二戸 三二四五燈

五、從 員 事 一七名

- 二五 山海關電燈股份有限公司
- 二六 秦榆電燈股份有限公司

右二公司は所在地中華民國側につき本文を省略す。

第四節 自家用兼供給事業

一 撫順……滿鐵撫順炭礦發電所

撫順に於ける電氣事業は始め炭礦所要動力に供するため自家用として開始されたるものにして粗悪炭を最も有利に處分し炭礦作業に低廉な動力を供給せんとし、大正三年十二月モンド式瓦斯發生裝置爐數一〇基を附屬する三、〇〇〇KW(一、五〇〇KW發電機二臺火力發電所を新設せられたるものなり。其後出炭増加に所要電力の需用増加によりモンド式爐二十二基、リム式爐十四基合計三十六基の瓦斯發生裝置並にターボゼネレーター五臺一二、〇〇〇KW(一、五〇〇KW二臺、三、〇〇〇KW三臺)を設置せり。

その後大正十一年七月大官屯に火力發電所を設備し、二〇、〇〇〇KW出力擴張計畫に基き第一期工事として一二、五〇〇KW及五、〇〇〇KWカーチス式發電機二臺を据付けしが更に昭和三年三菱製、チェリータービン一二、五〇〇KW一臺を据付け、電燈は炭礦用及び社用、社宅用に供するの外社外にも之を及ぼし、電力は炭礦作業各般の動力用とするを主とし、社外は滿電との契約に基き大正十一年撫奉送電線開通以來奉天、遼陽、鐵嶺、開原等に送電す。

昭和二年十一月職制變更に依り従來の撫順炭礦工業課を廢して撫順炭礦發電所としモンド

各 説

二二一

瓦斯發電工場係と大官屯發電工場係の二となしたり。而して九年末送電用として、五〇サイクル五〇、〇〇〇KW新發電所建設され、現在の設備容量は豫備を含めて一四二、〇〇〇KWなり。

一、資 本 金

興 業 費 七、〇六二、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (一〇・三)

イ、モンド瓦斯發電所 (豫備發電所)

發 電 機

製作者A.E.G. 種類三相交流 電壓二二〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回

容量一、五〇〇KW 臺數二基

製作者G.E. 種類三相交流 電壓二二〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容

量三、〇〇〇KW 臺數三基

汽 罐

製作者B & W 汽壓一四・一 加熱面積三七四平方米 臺數八基

製作者B & W 汽壓一四・一 加熱面積七七〇平方米 臺數一〇基

汽 機

製作者A.E.G. 種類カ―チスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量一、五〇〇KW 臺

數二基

製作者G.E. 種類カ―チスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量三、〇〇〇KW 台

數三基

ロ、大官屯第一發電所

發 電 機

製作者G.E. 種類三相交流 電壓一一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數一、八〇〇回

容量一二、五〇〇KW 台數一基

製作者S.S. 種類三相交流 電壓一一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回

容量一二、五〇〇KW 台數一基

製作者三菱 種類三相交流 電壓一一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數一、八〇〇回

容量二五、〇〇〇KW 台數二基

製作者G.E. 種類三相交流 電壓一一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回

容量五、〇〇〇KW 台數一基

汽 罐

製作者B & W 汽壓一二・七 加熱面積四〇六平方米 台數六基

製作者ガルベ 汽壓一二・七 加熱面積三九二平方米 台數二基

各 説

二二四

汽 機

製作者B W 汽壓二九 加熱面積一、四七〇平方米 台數三基

製作者G E・種類カーチスタービン 廻轉數一、八〇〇回 容量一二、五〇〇KW 台數一基

製作者三菱 種類ツエリータービン 廻轉數三、六〇〇回 容量一二、五〇〇KW 台數一基

製作者三菱 種類ツエリータービン 廻轉數一、八〇〇回 容量二五、〇〇〇KW 台數二基

製作者G E・種類カーチスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量五、〇〇〇KW 台數一基

八、大官屯第二發電所

發 電 機

製作者三菱 種類三相交流 電壓一一、〇〇〇 周波數五〇 廻轉數三、〇〇〇回 容量二五、〇〇〇KW 台數二基

汽 罐

製作者B & W 汽壓二九 加熱面積一、四七〇平方米 台數二基

汽 機

製作者B & W 加熱面積一、九三〇平方米 台數一基

製作者三菱 種類三菱タービン 廻轉數三、〇〇〇回 容量二五、〇〇〇KW 台數二基

三、送電線設備 (九三)

四四、〇〇〇V系 亘長 六七籽 支持物鐵塔五四基鐵柱五七七本木柱一、六三九本

一一、〇〇〇V系 亘長 九一九籽

四、内外線設備 (九三)

電 壓 高壓二二〇〇V 低壓一〇〇V

電 氣 方 式 三相交流

線 路 亘 長 五五九三一籽(坑内一一三九籽は含まず)

電 柱 本 數 一二、四八〇本

變 壓 器 九二九台 四八、一三一KVA (坑内三一五台 七、八六九KVAは含まず)

五、需用狀況 (九三)

電 燈 (坑内を含まず)

各 説

二二五

各	定	從	街	共	電	電	六、從	代	炭	主	共
說	額	量	燈	他	力	熱	事	表	礦	任	他
	燈	燈	燈	燈	計	別	員	者	長	者	備
	五、二七二戶	三、三五四戶	四、三七六燈	一、三九九燈	八、六二六戶	一、二八戶	(九三)	林博太郎	久保孚	岡雄一郎	員
	三、一九二九燈	三、一六四九燈	六、九三三燈	六、四九八一KW	四、四戶	一、二〇〇KW		事務員	二人	技術員	三九一人
					一、九四二KW			備員			

計 四一二人

二 本溪湖……本溪湖煤鐵有限公司

當公司發電所の起源は明治四十一年九月本溪湖大倉炭坑會社の自家用として七五KW發電機を据付け社内に點燈せしに始まりしものにして四十二年十月別に電氣公司を設立しA・E・G製七五KW發電機を新設して一般供給を開始せり。

然るに四十三年五月前記大倉炭坑會社と清國政府との間に合辦會社本溪湖煤鐵公司(資本金大洋銀貳百萬元設立されるに及び該公司是電氣公司を合併し翌四十四年六月製鐵事業を經營すると共に大洋銀四百萬元に増資し本溪湖煤鐵有限公司と改めたり。

大正三年製鐵事業關係諸設備の建設に際し既設採炭關係諸設備を電化し且前記製鐵作業諸設備に使用する電力を供給する目的を以て別に發電所を新設し之にA・E・G製一、五〇〇KW發電機二基を据付け大正四年四月より送電を開始すると同時に其餘力を以て市街一般需用者にも供給し既設七五KW發電所を閉鎖せり、爾來當公司作業の進展に伴ひ大正六年十月G・E製二五〇〇KW一基、大正十四年十二月A・E・G製三、〇〇〇KW一基更に昭和八年十二月神戸三菱造船所製六、〇〇〇KW一基を増設して今日に及び。

一、資 本 金 (九四)

興 業 費 金 一、七五七、六一二圓

各 說

二、發電所設備 (九四)

發電機

製作者 A.E.G. 種類三相交流 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇  
 容量二、五〇〇KW 台數二基

製作者 A.E.G. 種類三相交流 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇 容  
 量三、〇〇〇KW 台數一基

製作者 G.E. 種類三相交流 電壓二二〇〇V 電壓數三、六〇〇回 周波數六〇 容量  
 二、五〇〇KW 台數一基

製作者神戶三菱電機 種類三相交流 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數  
 六〇 容量六、〇〇〇KW 台數一基

汽 罐

製作者獨ボルチツヒ 種類水管式 汽壓一二七 加熱面積三九二平方米 台數六基

製作者 B & W 種類水管式 汽壓一二七 加熱面積四〇六平方米 台數四基

製作者日本汽車製造 種類タクマ水管式 汽壓一二七 加熱面積三六八平方米 台數  
 一基

汽 機

製作者 A.E.G. 種類カーチスタービン 馬力數二、〇〇〇馬力 台數二基

製作者 A.E.G. 種類カーチスタービン 馬力數四、〇〇〇馬力 台數一基

製作者 G.E. 種類カーチスタービン 馬力數三、三五〇馬力 台數一基

製作者神戶三菱造船所 種類ユングストロームタービン 馬力數九、〇〇〇馬力 台數  
 一基

三、送電線設備 (九四)

區 間

本溪湖廟兒溝鐵山間 (橋頭及南坎經由)

互 長

三〇八五軒

回 線 數

一

電 氣 方 式

交流三相三線式 六〇サイクル

最 大 電 壓

二二、〇〇〇V

電 柱 本 數

鐵塔二 本柱六五二

四、内外線設備 (九四)

電 壓

高壓二二〇〇V 低壓電燈一〇〇V 電力二二〇V

電 氣 方 式

三相三線式及單相二線式

線 路 互 長

五一〇四軒

各 説

各 電 柱 本 數 一、二七〇本  
 變 壓 器 一五八箇 三、二四五KV A  
 五、需 用 狀 况 (九、四)

電 燈	定 額 燈	二、八九九戸	一、二八〇八燈
電 燈	從 量 燈	六八一戸	五、六五〇燈
電 燈	計	三、五八〇戸	一、八四五八燈
電 力	一 般	二七戸	三五二馬力
電 力	特 別	一戸	一七八馬力
電 熱	計	二八戸	五三〇馬力
電 熱	計	三四戸	四九七五KW
六、從 事 員 (九、四)			
總 辦	梶山又吉	主任技術者	小島喜久馬
其 他 職 員	一三人	備 員	三四人
共 計	一七二人	計	二一九〇人

### 第五節 其他の供給電氣事業

#### 一、奉 天 省

##### 1 海城……海城電氣有限公司

大正十三年三月郭松齡は個人事業として當地に裕民電燈廠を創設せしが翌十四年十二月同氏没落と同時に張作霖氏の所有に歸し、海城電燈廠と改稱同縣縣知事代りて之を經營することゝなれり。然るに昭和三年九月に至り、海城商務會は同廠設備一切を現大洋八萬元にて買收の上、資本金現大洋十一萬元の海城電氣有限公司を設立し、百二十五KW交流發電機を設備せしが滿洲事變後小規模發電所孤立の不利を悟り、人を介し滿電に受電方申込あり、仍つて昭和七年一月二十一日より發電所を閉鎖し最大電力二百KVAを限度とし受電を開始せり。

##### 一、資 本 金 (九、二)

公 稱 資 本 金	國 幣	一、一〇〇、〇〇〇圓
拂 込 資 本 金	同	一〇五、九〇〇圓
興 業 費	同	一〇八、一一三圓



各 説  
二、内外線設備(九一)

電 壓 高壓三三〇〇V 低壓電燈一〇〇V 電力二〇〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 三三三本

變 壓 器 四七台 三三三五KV A

三、需用狀況(九一)

電 燈

定 額 燈 三三〇戸 七一〇燈

從 量 燈 一九一戸 六六八五燈

計 燈 五二一戸 八〇一五燈

電 力 一四戸 一六台 一四六五馬力

四、從 事 員(九一)

總經理 幸徳潤 副理 黎鐵生 其他八人

2 四平街...四平街市電燈股份有限公司

本公司は梨樹縣知事の慈惠に依り用樹松氏計畫の下に大正十二年十二月創設せられたるものにして、資本金奉小洋十二萬元は梨樹縣地方捐收發所長より之を立替へたり、後奉小洋十五萬元に増資し、梨樹縣及一般商戸各々折半負擔せり。容量百KWの發電機一基を設備し、一切の設備は哈爾濱シームンスの請負に成る梨樹迄送電線路を建設し、電燈約八百燈受電變壓器容量五十KV Aを供給す。

滿洲事變後は電氣供給の萬全を期すべく發電所を閉鎖し四平街電燈株式會社現在大同電氣株式會社より受電するに至れり。

一、資 本 金(八一)

公稱資本金 國 幣 一五〇,〇〇〇圓

拂込資本金 同 八七,六五〇圓

興 業 費 同 一二四,一八八圓

二、發 電 所 設 備(八一)

發 電 機

製作者 S.S. 種類 三相交流 電壓 三一五〇V 周波數 五〇 廻轉數 七五〇回 容量 一

〇〇KW 台數 一基

各 説

各 説

二三四

汽 罐

製作者ウルフ 種類ロコモビル 汽壓一七〇封度 加熱面積一八六〇平方呎 台數一

基

汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル二汽筒 馬力數一四五馬力 廻轉數二一〇回 台數一

基

受 電 容 量 一五〇KVA(五〇サイクル)

三、内外線設備(八・二)

電 壓 特高一〇、〇〇〇V(送電) 高壓三、三〇〇V 低壓二二〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 三三〇本

變 壓 器 一八臺 一八六KVA

四、需用狀況(八・二)

電 燈

定 額 燈 一六三四燈

從 量 燈 一三六七燈

街 燈 三三八燈

計 三、三三九燈

電 力 六戸 三〇馬力

五、從 事 員(九・三)

經理 畢寶華 技師長 羅柏年

共 他 二三人

(備考)梨樹分廠を含む)

二、吉 林 省

1 樺甸……耀樺電燈公司

當地は始め製粉工場鼎和泉が自家用電力の餘剰を以て一般市中電燈約百燈に供給したるものなるが後樺甸縣商務會長陳景洲氏及其の他の有力者相謀り資金を醸出して哈爾濱よりロコモビル及發電機を購入せり。工事施行は露人技師之に當り昭和五年五月竣工營業を開始せるが設備の不完全に加へて經營亦宜しきを得ず毎年缺損の状態にあり。滿電に於ては當公司の接洽に應じ之を買收後東方電業樺甸營業所となす豫定なるも未だ具體的計畫に到らず今日に及べり。

各 説

二三五

一、資 本 金 (八九)

公稱資本金 國幣 一〇〇,〇〇〇圓

二、發電所設備 (八九)

發電機

種類直流 電壓二三〇V 容量七〇KW 台數一基

原 動 機

種類ロコモビル 容量一〇〇馬力 台數一基

三、需用 狀 况 (八六)

電 燈 數 一,二三八燈

四、從 業 員 (八九)

經理 陳景洲 技術員 カンブアルコオ(波)

2 審門……審門電燈廠

大正七年十二月英國人ジョンズ氏は東支鐵道長官より當地電燈事業經營の權利(營業許可期)を獲得し、露國人トーカーチヨフ氏を營業支配人として鐵道附屬地並支那市街に電燈を供給せり。始め二十KW直流發電機一基を設備せしも、運轉開始後間もなく破損せるを以て、新たに三十KW直流發電機を設備し、之に依り電燈約一千三百燈を供給して一箇月平均二千留程度の純

益を擧ぐることを得たるも、偶々露貨の暴落に際會し業績著しく不振を極むるに至りたり。此の時に方り、鐵嶺電燈局は夙に同事業の買收計畫を樹て、滿鐵會社より之れが資本金五萬圓(利息年)の融通を受くる諒解を得て之が交渉を纏め八年五月より營業を繼承することとし、日英兩國領事館の登記を了せり(因みに買收當時の同事業財産總額は貳拾五萬八千九百五拾留にして日本貨百圓には仲介料を)含み居れり)

然るに繼承後一週日を出でずして、煙突倒塌し六月十四日再築竣工して再び送電を開始することを得たるが其の後も故障百出し需用家側に非難の聲高く燈數は漸減の勢を示したり。偶々九年十一月強風の爲再築の煙突三斷して全く使用に耐えざるに至りたるを以て之を機會に日支露各機關の諒解を得て無期停電を發表し發電所には看視人を附することとして一先づ従事員を引揚げしめたり。

斯くの如き状態なりしかば、大正九年末の缺損は實に金壹萬貳千八百八拾圓の多きに達し別に買收價格の内八千圓は明かに買收報價として仲介者に與へられたるものなるを以て之をも加算するときは缺損額は優に金貳萬八百圓に上れり。

越えて十年一月前記看視人よりの報告に依れば在哈爾濱のトーカーチヨフ氏は審門鐵道病院長等と協同して同事業の買收を計畫中なりとのことなりしも、鐵嶺電燈局より實地調査せる結果這は畢竟爲にせんとする者の奸策なることを知り得たり。然れども停電久しきに互るときは

自然斯くの如き運動も起り、延ては支那側官民の蠢動ともなる虞あり、絶對廢業するか然らずんば再興營業するかの岐路に逢着せるを以て鐵嶺電燈局より再び現地に出張の上實情を調査せしめたるところ、汽罐内部の大修理並煙突の改築を主なるものとし、此の際約金五千圓を投ぜざれば再興覺束なく、他面季節並四圍の事情よりしても當分現状の儘を可とするに決し約一箇年放任して顧みざりき。

然るに同年十一月滿鐵會社は漸く事業再興の時至れりと爲し長春電燈營業所に再調査を命じ約金參千五百圓(現物出資額)を以て改修再興する確信を得たるを以て取急ぎ之が準備を整へ同十二月より送電を開始するに至り翌十一年三月末には點燈數七百を算へたり。

斯くて事業は一時小康を得一千燈以上の供給も敢て至難ならざる状態に在りしも既設發電機の容量を以てしては到底之に應じ得べくも非らず、且つ其の後も發電機の小故障續出して又もや巨額の缺損を招くの止むなきに至りたり、依つて三度鐵嶺電燈局は滿鐵に對し金貳萬參千圓の事業資金の融通方申請したるが當時鐵道機關庫の撤廢並特産市況の不振に因り同地市中の凋落甚しく右救済案は滿鐵の認可するところとならず、遂に大正十二年九月限り營業を休止せり。

翌十三年三月鐵嶺電燈局は事業設備一切を在哈爾濱の獨商イフリアンド商會に對し金壹萬貳千圓を以て讓渡せり。

斯くして鐵嶺電燈局は完全に本事業と絶縁せるに至りたるが買収に先立つて調査に多分の缺陷あり、繼承後も監督の行届かざりし憾みもあり、全く之が經營を失敗に終らしめ結局金四萬五千六百圓餘の損失を蒙りたり。

斯くてイフリアンド商會の手に依り發電機容量六十二KWを設備し、電燈約一千五百燈(需用家數約二百)を供給せり、其後在哈爾濱の呂泰公司(滿人呂泰氏露人シビツコーフスキー氏共同經營之を)一九三一年九月國幣二六、〇〇〇圓にて譲り受け經營せるも發電所汽罐の故障續出し需用者間に相當非難の聲ありし時、北鐵經營の發電所より收益按分の條件にて共同供給の交渉ありたるも協調ならず密門電燈廠は之を拒絶し故障續出の汽機を廢し、現在二六KW發電機とロコモビル四五馬力を運轉し供給しつゝあり、最近某日本人を通し哈爾濱電業局に買収方交渉ありし由にて先方は國幣三〇、〇〇〇圓餘に讓渡希望の由なり。

密門電燈廠供給區域は德惠縣張家溝特別區及第四區にして鐵道西側に限られ需用家は概ね商農にして昭和三、四年の匪賊の襲撃に住民逃避し當時やゝ衰微せしも治安回復に従ひ居住民増加し活氣を呈す。

## 一、資 本 金 (一〇・三)

公稱資本金 國幣 二六、〇〇〇圓

## 二、發電所設備 (一〇・三)

各 説

各 說

發 電 機

製作ノースウエスターン 種類直流 電壓二二〇 廻轉數一〇五〇回 容量二六KW  
臺數一基

原 動 機

製作者バージニヤ (Winham No. 4338) 種類ロコモビル 汽壓一二 容量四五馬力 廻轉  
數不明 臺數一基

其 他

三二KW及五KW發電機一八馬力一六馬力オイルエンジンある由なるも建物の片隅に  
發電機のみ其影を認む。

負 荷 狀 態

尖 頭 負 荷 二七KW  
平 均 負 荷 二〇KW  
一 日 發 電 量 二一〇KWH  
一 月 發 電 量 六、〇〇〇KWH  
燃 料 一 ヶ 月 二五噸 穆稜炭

三、内外線設備 (一〇三)

電壓二二〇V 電氣方式直流二線式 電柱數二六〇本

四、需用狀況 (一〇三)

定 額 燈 三五〇燈  
從 量 燈 五〇〇燈  
計 八五〇燈

五、從 事 員 主任ジビフコルスキー 他露人 三名 滿人 二名 計 六名

六、料 金

從 量 燈 一KWH 四角五分  
定 額 燈 一六燭光 一圓九角  
二五燭光 二圓一角  
五〇燭光 四圓 (一〇五)

3 扶餘……扶餘電燈股份有限公司

大正十五年當時の扶餘縣長李科元氏の主唱にて地方人經營の株式組織とし資本金十二萬元  
にて建設にかゝり昭和三年二月營業を開始するに至れるも爾來資本不足の爲同氏より哈大洋  
六萬元の融通を受け辛うじて現狀を維持しつゝあり最近我社に讓渡申込ありたれど未だ具體

各 說

的交渉に至らず。

一、資 本 金 國幣 一、二〇、〇〇〇圓

二、發電所設備

發 電 機

製作者英國E社 種類三相交流 電壓四〇〇V 周波數五〇 廻轉數六〇〇回 容量

一二〇KW 臺數一基

汽 罐

製作者EMC 種類ロコモビル 汽壓一七〇封度 馬力數一五〇馬力 台數一

基

汽 機

製作者EMC 種類ロコモビル 馬力數一二〇 廻轉數二〇〇回 臺數一基

三、需用狀況

電 燈

定 額 燈 五三七戸 一、一〇〇燈

從 量 燈 六四戸 九八五燈

街 燈 一六〇燈

計

電 力

六〇一戸 二、二四、五燈 七五馬力

#### 4 松花江……松花江電燈公司

一、九二三年開始せる猶太系露人アリオピッチ個人經營電燈公司にしてアリオピッチは哈爾濱に居住しルスコフゲオルグ、ワンチ代表としてその衝に當れり。

初め一八馬力瓦斯機關にて四三KW發電機を運轉供給せるが一、九二八年現設備に改設せり當地は松花江に臨み風景明媚なる避暑地にして夏季來遊する者多く夏冬により電燈數増減す電燈公司是鐵路局の建物を一ケ年一二〇金留にて賃借し居れり。數年前北鐵より買収問題起り當時一四、〇〇〇弗に評價せりと云ふ。

一、發電所設備

發 電 機

製作者ベルグマン 種類直流三線式 電壓二×二三〇V 廻轉數一、二〇〇回 容量五

三KW 臺數一基

瓦 斯 發 動 機

製作者キャンベル 種類吸入瓦斯 廻轉數一八〇回 馬力數五八 臺數一基

尙豫備機として次の舊設備あり。

各 説

各 説

發 電 機

製作者 A E G 種類 直流三線式 電壓 2x230V 廻轉數 八七五回 容量 四三KW  
臺數 一基

瓦 斯 發 動 機

製作者 瑞アバンス 種類 吸入瓦斯 廻轉數 四〇〇回 馬力數 一八 臺數 一基

發 電 狀 況 (一〇三)

尖 頭 負 荷 五三KW

平 均 負 荷 二四KW

燃料は木炭を使用す。

二、需 用 狀 況

電 燈 冬 五六〇燈

夏 八七六燈

外 に 差 込 五九燈

三、從 事 員

主 任 ルスコフゲオルグ・ワレンチ

技 師 露 人 二名

火 夫 滿 人 二名

電 工 滿 人 一名

計 六名

四、料 金

一從 量 燈 一般 一KWH 二五哥

病 院 ” 一五哥

定 額 燈 なし

(一〇五)

5 楡 樹 …… 楡 樹 電 燈 公 司

昭和三年十月發起人于險舟厲維城外十一名に依り資本金哈大洋九萬元九〇〇〇株、一株哈大洋十元を以つて創立され發起人員數の都合にて其後四〇株を増資し九萬四千元となし第一次拂込額面の半額即哈大洋四萬五千二百元とす然して同公司建設費興業費は八萬元を超え昭和四年五月より營業開始せるも創立當時既に四萬元の負債を有す。

昭和五年五月瓦斯機關主軸折損修復迄二ヶ月半停電同年八月一日運轉開始せり。事變に遭ひ三ヶ月營業を休止十二月送電開始せるも營業益々不振昭和六年三月再度機關主軸破損修復迄

各 説

二ヶ月餘を要し斯る營業状態にあつて業績の見る可きものある筈無く其需用僅かに七〇〇燈を  
を残すのみにて毎月平均收入七―八百圓なり。

斯る業態にある際昭和八年七月には債權者怡和洋行濱江法院に告訴し法院側該会社の財産  
を查封する手續を執行しこの事件より各株主新に資本金を募集數回の拂込にて一切の負債を  
返済目下負債無く業績稍々見る可きものあり

一、資 本 金

公稱資本金 哈大洋 九〇,四〇〇元

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者H T B 種類直流 電壓二三〇V 容量四四・五KW 台數一基

原 動 機

製作者ナショナル 種類吸入瓦斯 容量七五馬力 台數一基

三、需 用 狀 況

定 額 燈 二五三戸 八二二燈

從 量 燈 一九戸 二一〇燈

免 費 燈 九三燈

計 二七二戸 一二二五燈

四、燃 料

木 炭 東方約二四〇支里の舒蘭、五常、兩縣より荷馬車にて冬期のみ運搬す

價格百斤に付一圓四角餘

(一〇三)

三、龍 江 省

一 拜 泉 ； 殖 東 電 燈 有 限 公 司

當公司は大正十四年資本金九萬九千八百元四十二名の株主により創立せられ、以來順調なる  
經營を持續し一時供給燈數四千を數へたることありしが昭和五年來の財界不況に禍ひされ、加  
へて事變以來兵匪の危に遇ふこと數次商館の閉鎖續出し爲に需用の激減を來し經營難を啣つ  
に及び遂に救濟方を縣廳に求むるに至れり。こゝに於て縣の有力者會商を重ね救濟の道を見出  
さんと努めたるも資本融通の法なく何等具體的の救濟方法を講じ得ざりき。されば現在の公司



は日々の集金にて購ひ得た丈の燃料を以て發電しつゝあり、氣息奄々の態なりと。

一、資 本 金 (八・五)

公稱資本金	國幣	九九,八〇〇圓
興業費	同	三一〇,〇〇〇圓

二、發電所設備 (八・五)

發電機

製作者 S・S・	種類 直流複捲三線式	電壓 五〇〇 V	容量 四八 KW	臺數 一基
製作者 不明	種類 直流複捲三線式	電壓 四四〇 V	容量 一二五 KW	臺數 一基

汽 罐

製作者 バデニヤ	種類 ロコモビル	汽壓 一〇	臺數 一基
----------	----------	-------	-------

製作者 スミス	種類 ロコモビル	汽壓 一五〇 封度	馬力 數 一〇〇 馬力	臺數 一基
---------	----------	-----------	-------------	-------

汽 機

種類 豎形複式 容量 六〇馬力 臺數 一基

三、内外線設備 (八・五)

電柱本數 二七一本

四、需用狀況 (八・五)

電 燈

定額燈	二〇〇戸	四二四燈
從量燈	一八戸	一八三燈
街燈		一一五燈
計	二一八戸	八二二燈

五、從 事 員 (八・五)

計 一九人

四、濱 江 省

1 雙城堡……耀雙電燈公司

本公司は大正三年一月額面一百留五百株を募集せるが應募者將來不利益なりとの見越しをつけ違約する者多く、僅かに拂込額五千二百留を得たるのみなりき茲に於て發起人蔣雅堂氏は自己の不動産を賣却し二萬六千五百留を投資したるも尙不足を告げしを以て諸機械類を擔保とし殖邊銀行より四千留を借受け韓慶堃氏を支配人として同年四月漸く營業を開始するに至

れり。

其後大正十五年五月北門外に發電所を新に建設し資本金を哈大洋三十萬元に更め現に百六十KW發電機二基を設備し電燈三千九百五十燈(需用家數五)供給しつゝあり。

昭和九年二月事業買収方に就き實業部に對し斡旋依頼ありたり。

一、資 本 金

公稱資本金 二六四、八〇〇圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者S.S. 種類三相交流 電壓五、二五〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量二

四〇及一六〇KW 台數二基

汽 罐

製作者ウルフ 種類ロコモビル 汽壓一三〇封度 台數二基

汽 機

製作者S.S. 種類ロコモビル 馬力數二三五馬力 廻轉數二一〇回 台數二基

發 電 狀 況 (一〇・五三)

尖 頭 負 荷 一六三KW

平 均 負 荷 八一KW

一 日 發 電 量 一、三五〇KWH

一 日 石 炭 消 費 量 約 二屯 撫順炭

三、内 外 線 設 備

電 壓 高壓五、二五〇V 電燈用一一〇V 電力用二二〇V

電 氣 方 式 三相三線及單相二線式

電 柱 本 數 一、〇四七本

四、需 用 狀 况

電 燈

定 額 燈 五〇〇戸 一一〇〇燈

從 量 燈 九五戸 一八〇〇燈

街 燈 一〇五〇燈

計 五九五戸 三九五〇燈

五、從 事 員

經 理 陳慎修

職 員 一四名

各 説

各 説  
 雇 員 八名  
 工 人 一五名  
 苦 力 六名  
 計 四四名

六、料 金

從 量 燈	一 K W H	〇三五
定 額 燈	一六燭光	一六〇
	二五同	二〇〇
	五〇同	三〇〇
	一〇〇同	五五〇
外 燈	一六同	一〇〇
電 力	一 K W H	〇一八

(一〇五)

2 阿城：阿什河電燈股份有限公司

本事業は初め大正十三年八月露人アポストロフ氏が七十五KW直流發電機を施設開業せるものを昭和二年四月張星橋于一齋及于險舟等右事業買収を提唱株式を募集して十月繼承せる

ものなり同十一月官府より阿什河縣城及驛特別區を以て供給區域とすべき指令を受けたるも驛特別區には露人ツアメンストー氏經營の既設電氣事業ありしが特別區の需用を満し得ざるのみならず公式の供給權を得たるものに非ざる等の事情に依り昭和五年特別區行政長官の訓令を仰ぎて右私營電氣事業の營業を停止せしめたり前記アポストロフ氏より繼承せる七十五KW發電機は樺甸電燈公司に讓渡せり。

最近匪賊横行して當市の凋落甚しく營業亦甚大なる打撃を蒙り缺損を續けつゝあるが治安恢復するに至らば相當業績の向上を望み得べしと言ふ。

一、資 本 金

公稱資本金 國幣 一〇〇,〇〇〇圓  
 興業費 同 一四,二三七〇圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者 S.S. 種類 三相交流 電壓 五,三五〇V 周波數 五〇 廻轉數 七五〇回 容量 一

〇〇KW 台數 一基

原 動 機

製作者 マーシャル 種類 ロコモビル 汽壓 一九〇封度 馬力數 一二五馬力 台數 一基

各 説

各 説

三、内外線設備

電 壓 高壓五二五〇V 低壓二三〇V

電 柱 本 數 五三〇本

變 壓 器 一〇台 一二〇KVA

四、需用狀況

電 燈 數

定 額 燈 三〇〇戸 七一六燈

從 量 燈 八一戸 一三八〇燈

街 燈 三八一戸 二二二四燈

計

五、從 事 員

正 經 理 張 星 橋

職 員 六名

備 員 一四名(内日本人一名)

計

二一名

六、料 金

從 量 燈 一KWH 〇三五

定 額 燈 一六燭光 一五〇

二五同 一八〇

五〇同 三二〇

一〇〇同 五二〇

二〇〇同 八二〇

街 燈 二五同 一〇〇

(一〇・五)

3 珠河……東耀電燈公司

大正十五年十二月五日點燈開始にして資本金哈大洋八萬元を以て李金生及玉子禎氏等の發起により經營し來りしが資本に不足を生じ十五萬元に増資す始め經營順調なりしが昭和七年春匪賊の襲來に會ひ施設一部焼失し經營困難に陥り一時休業せり。その後昭和八年に至り治安やゝ回復し開業の議起り修理費一九一八八圓を以て同年七月不良箇所及機械の修繕を行ひ昭和九年一月一日再び開業の運びに至れり再開業後の成績は依然不良にして缺損を示し救濟方法を講ぜざれば再休業の止む無きにいたるやも知れぬ状態にあり。亦電燈も規定の光力を發せず暗し。

各 説

各 說

一、資 本 金 國 幣 八 七 五 〇 〇 圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機 (汽 機 直 結)

製 作 者 ス コ ダ 種 類 直 流 三 線 式 電 壓 四 四 〇 V 迴 轉 數 二 五 〇 回 容 量 五 〇 K W 臺 數 一 基

汽 罐

製 作 者 ス コ ダ 汽 壓 一 一 〇 封 度 加 熱 面 六 〇 平 方 米 容 量 七 五 馬 力 臺 數 一 基

汽 機

製 作 者 ス コ ダ 種 類 豎 型 單 筒 迴 轉 數 二 五 〇 回 容 量 七 五 馬 力 臺 數 一 基

發 電 狀 況

一 月 二 月 三 月

發 電 量 K W H 一 一 七 六 六 一 一 〇 九 七 一 〇 一 九 一

最 大 負 荷 K W 四 〇 四 四 四 一

三、需 用 狀 況

電 燈

定 額 燈 二 九 六 戶 七 九 一 燈

從 量 燈 七 三 戶 六 二 五 燈

計 三 六 九 戶 一 四 一 六 燈

四、從 事 員

代 表 者 李 鈞 田 職 員 四 人

傭 人 六 人

計 一 一 人

五、料 金

從 量 燈 一 K W H 〇 四 〇

定 額 燈 二 五 燭 光 二 〇 〇

三 二 ” 二 六 〇

五 〇 ” 三 六 〇

一 〇 〇 ” 六 五 〇

(一〇五)

4 一 面 坡 …… 昌 隆 電 燈 股 份 有 限 公 司

各 說

古くより當地驛特別區には電氣事業あれども一般商民は電氣供給の餘澤に浴せず旁支那側に自主的思潮熾なるものあり。大正十三年郭子明、前市政局長楊紹齊及盧壽齡の諸氏相謀り、商民への電氣供給に任ずる事業を計畫し、株式を募集することとし、昭和三年十一月官府の許可を得、翌四年十一月點燈開業せり。然るに驛特別區グーベルトジョンス事業との間に供給上の紛議を起し、彼此相譲らずして滿洲事變に至り漸くジョンス事業は結末を見たり。公司營業四年、其の間ジョンス事業との争執及匪賊の受難等の事情に依り業績擧らずして負債の償還に苦しめられつゝあり。

一、資 本 金

公稱資本金	國幣	二〇〇,〇〇〇圓
拂込資本金	同	八〇,〇〇〇圓
興業費	同	一二〇,二〇二圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者G.E. 種類三相交流 電壓四〇〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量一〇〇KW 臺數一基

原 動 機

製作者クロスレーブラザース 廻轉數二四〇回 容量一五四—一七〇KW 臺數一基

發 電 狀 況

一日發電量	六三〇KWH
尖頭負荷	七〇KW
平均負荷	五五KW
燃料は木炭を使用す	一〇〇斤 一四〇
一日消費量	二,〇〇〇斤

三、内 外 線 設 備

電 壓	二二〇V 四〇〇V
電 氣 方 式	三相四線式及單相二線式
線 路 互 長	一五杆
線 路 延 長	四三杆
電 柱 本 數	三八二本

四、需 用 狀 況 (九・一二)

電 燈	
定 額	三七五戸
各 説	六二一燈

各 街 從 量 燈  
 一、八五三燈  
 一五二燈  
 四九九戶  
 二、六二六燈

五、從 事 員

經 理 劉郁東  
 職 員 一〇名  
 工 人 一一名  
 計 二二名

六、料 金

從 量 燈 一 K W H 〇三六  
 定 額 燈 二五燭光 一八〇  
 五〇” 三二〇  
 一〇〇” 五八〇

(一〇五)

5 石頭河子…福盛電燈公司

當公司はもと横道河子福盛電燈公司の分廠として昭和二年六月現大洋三萬元を以て營業開始せられたるものにして其後横道河子福盛公司より分離し張文光氏の經營するところとなる開業當初は約千五六百燈點燈の豫定なりしが昭和四年三千燈前後に増燈するを得たるも事變の勃發により市民の難を避くるもの續出し一時休業の止むなきに至れり其後官民の點燈要求切なるものあり依つて當地農商務會軍隊警察等協力し遂に昭和九年十月初旬再び開業の運びとなりたり然れども地元の商況不振にして需用家少なく經營困難なり。

一、發 電 所 設 備 (九・二二)

發 電 機

第 一 號 機

製作者 S S 種類 直流三線式 電壓 四六〇 V 廻轉數 一〇五〇回 容量 五三 K W 台  
 數一基

第 二 號 機 (現在使用)

製作者 W H 種類 直流二線式 電壓 二五〇 V 廻轉數 一〇五〇回 容量 二四 K W 台  
 數一基

汽 罐

各 說

各 説

汽 機

製作者スコダ 種類横型煙管式 容量一五〇馬力 汽壓二〇〇封度 台數一基  
製作者エンブルグ、エレクトロリツク、エンド、メカニカル、ウオークス 種類豎型複式 廻轉  
數三五〇回 台數一基

二六二

二、内外線設備(九二二)

方 式	直流三線式
回 線 數	一回線
電 壓	二三〇V
電 線 種 類	裸銅線
支持物種類	木柱
支持物數	一六四本
電線路互長	四八籽
電線延長	一四八二籽

三、需用狀況(九二二)

電 燈	二三七戸	三九〇燈(街頭五〇燈を含む)
-----	------	----------------

從 量 燈

計 一六戸 一二三燈  
二五三戸 五一三燈

四、從 事 員 (九二二)

經 理	張文光
職 員	一人
備 員	四人
計	五人

6 亞布洛尼……近藤林業公司

本公司の本店は哈爾濱にあり當地は同公司工場の所在地にしてもと露人カワリスキー氏の經營に係り相當古き歴史を有し昭和八年始に至り近藤林業公司の經營に移れるもその間の經過詳かならず本公司は原來自家用なれどもその餘剩電力を一般市民に供給し居るものなり。

一、發電所設備

發 電 機

第 一 號

製作者WII 種類交流三相式 電壓三八〇V 周波數六〇 廻轉數一二二〇〇回 容量  
九〇KW・台數一台

各 説

二六三



各 說  
第 二 號

製作者GE 種類三相交流 電壓三八〇V 周波數六〇 容量三二二KW 台數一基

第 三 號

製作者GE 種類三相交流 電壓三三〇〇V 周波數六〇回 廻轉數四五〇回 容量

七〇KW 台數一基

第 四 號

製作者大阪 種類直流二線式 電壓二二〇V 廻轉數七五〇回 容量五〇KW 台數

一基

汽 罐

製作者ウォルフ 種類ロコモビル 汽壓二〇〇封度 馬力一〇五 台數一基

原 動 機

製作者ウォルフ 種類ロコモビル 馬力一〇五 台數一基

製作者不明 種類瓦斯機關 馬力七五 台數一基

製作者不明 種類汽機 馬力三五〇 台數一基

二、需用狀況

電 燈 約八〇〇燈

三、料 金

從 量 燈 一KWH 留 〇・一二

定 額 燈 一六燭光 〇・四五

二五” 〇・六五

五〇” 一二〇

(一〇・五)

7 綾芥河…實成電燈公司

當地は濱綾線と烏蘇里鐵道との接合點に位する國境驛として市街比較的殷盛なり實成電燈  
公司は李金生氏外六人の出資に成る合資會社にして、大正九年四月の創立に係る。

一、資 本 金

公稱資本金 國幣 八〇,〇〇〇圓

興 業 費 同 二六六,〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備

第 一 號 機

發 電 機

製作者スコダ 種類直流三線式 電壓四七〇V 廻轉數二五〇回 容量一〇〇KW

各 說

各 說

台數一基

汽 罐

製作者スコダ 種類煙管式 汽壓一二 台數一基

汽 機

製作者スコダ 種類豎型複式 容量一四七馬力 台數一基

第 二 號 機

發 電 機

製作者S.S. 種類直流二線式 電壓二三〇V 廻轉數二〇八〇回 容量三一KW 台

數一基

製作者S.S. 種類直流二線式 電壓二三〇V 廻轉數一二二〇回 容量三六KW 台

數一基

原 動 機

製作者マシチン 種類ロコモビル 汽壓一一 容量八七馬力 台數一基

發 電 狀 況 (九年度)

石炭使用量 一、五五〇噸 穆稜炭

同 價 格 二六、五三三圓

二六六

一 噸 價 格

一六圓八角六分

三、內 外 線 設 備

電 柱 數

五八六本

四、需 用 狀 況

電 燈

定 額 燈

一、二一八戶

二、六九六燈

從 量 燈

四、六五戶

四、三九三燈

計

一、六八三戶

七、〇八九燈

電 力

六戶

八九五馬力

五、從 事 員

經理 李金生

顧問 白濱文雄

副經理 譚景川

其 他

二八名

六、料 金

從 量 燈

一 K W H

〇・三九

定 額 燈

二五燭光

二・〇〇

各 說

五〇”

四・〇〇

二六七

各 説

七五”

六〇〇

二六八

一〇〇〇”

八〇〇

(一〇・五)

### 8 滿溝……公立電燈公司

大正十四年十月成立、十五年二月營業開始せり。本公司は比較的事故少く良好の成績を上げつゝあり。發電所燃料には乾草を使用しつゝあるは他と異なる處なり。

#### 一、資 本 金

資 本 金 國 幣 四〇、〇〇〇圓

#### 二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者エレクトリック、コンストラクション 種類直流三線式 電壓四四〇V 廻轉數  
八五〇回 容量六〇KW 台數一基

原 動 機

製作者マーシャル 種類ロコモビル 汽壓一二 馬力一二五 台數一基

#### 三、配 電 線 設 備

電 氣 方 式 三線式四四〇V及二二〇V  
電 柱 二七一本

#### 四、需 用 狀 況

定 額 燈 二三七戸 七一七燈  
從 量 燈 三六戸 五七六燈  
計 二七三戸 一、三八三燈

この外鐵路局に供給す。

#### 五、從 事 員

董 事 長 劉新如  
外 一四名

#### 六、料 金

定 額 燈 一六燭光 一・六〇  
二五” 二・〇〇  
五〇” 三・七〇  
一〇〇” 七・〇〇  
從 量 燈 一KWH 一・三六

各 説

二六九

各 説

(104)

二七〇

### 9 安達……安達電燈股份有限公司

初め北鐵俱樂部自家用發電所よりイフリアントをして市中に供給せしめつゝありしが昭和二年本公司營業を開始し昭和六年奉天官憲の力を籍り俱樂部發電所を閉鎖せしめ、驛關係方面へも供給するに至れり。本公司發電所は燃料として乾草を使用しつゝあり。

#### 一、資 本 金

資 本 金 國 幣 一九二〇〇〇圓

#### 二、發 電 所 設 備

##### 發 電 機

常用 製作者 S S 種類 直流三線式 電壓 四四〇 V 廻轉數 七一〇 回 容量 一七〇 K

W 台數 一基

豫備 製作者 ベー ジ 種類 直流三線式 電壓 四七〇 V 廻轉數 八〇〇 回 容量 八〇 K

W 台數 一基

##### 原 動 機

製作者 ウオルフ 種類 ロコモビル 汽壓 一五 容量 二二〇 馬力 台數 一基

#### 三、配 電 線 設 備

電 氣 方 式 三線式 四四〇 V 及 二二〇 V  
電 柱 五 一 五 本

#### 四、需 用 狀 况 (推 定)

定 額 燈 二〇〇〇 燈  
從 量 燈 一〇〇〇 燈  
計 三〇〇〇 燈

#### 五、從 事 員

經 理 王 星 五  
事 務 七 名  
工 務 一〇 名  
苦 力 一 一 名  
計 二 九 名

#### 六、料 金

定 額 燈 一〇 燭 光 一〇〇  
一 六 ” 二〇〇  
二 五 ” 二 三 二

各 説

二七一

各 說

五〇” 四六四

一〇〇” 九二八

從 量 燈 一 K W H 三五二 (一〇・五)

### 10 松浦……哈爾濱鐵路局

昭和二年呼海鐵路總局の所在地松浦に三百五十KW發電機一基を据付け、自家工場の餘力を以て一般に供給を開始せり次で昭和六年呼蘭製糖會社にありし百二十六KW發電機一基を移設せるが昭和九年哈爾濱電業局より受電に更め發電所を閉鎖せり。

#### 一、發電所設備 (一〇・三)

發電機 (第一號)

製作者 G.E. 種類 三相交流 電壓 三,三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 五〇〇 回 容量 一

二六 K W 台數 一基

汽機

製作者 R.M. 種類 ダブルアクチング 廻轉數 五〇〇 回 台數 一基

發電機 (第二號)

製作者 M.V. 種類 三相交流 電壓 三,三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 一,〇〇〇 回 容量

三五〇 K W 台數 一基

汽機

製作者 M.V. 種類 タービン 容量 三五〇 K W 廻轉數 四,五〇〇 回 台數 一基

汽罐

製作者 B & W 種類 水管式 汽壓 一七五 封度 加熱面積 一,四一一 平方呎 台數 二基

#### 二、内外線設備 (七・六)

電壓 高壓 三,三〇〇 V 低壓 一一〇 V

電氣方式 三相三線式及單相二線式

電柱本數 一,五〇〇 本

變壓器 二七台

#### 三、需用狀況 (七・六)

電燈

定額燈 五〇〇 燈

從量燈 一,五〇〇 燈

計 二,〇〇〇 燈

#### 四、從事員

各 說

各 說

從事員總數

三二人

二七四

### 11 呼蘭...呼蘭電燈廠

當地に於ける電氣事業は明治四十年資本金哈大洋五萬元を以て設立せられ後黑龍江省官銀號の有に歸し呼海鐵道開通前迄は地方農産物の集散地として繁榮せるが鐵道開通と共に漸次衰微し電燈需用激減し料金回收不能に陥り營業繼續不可能となり昭和七年十一月休止せり。然して八年六月軍隊駐屯するに及び治安上大いにその必要に迫られ軍の要請と當局並に住民の懇望により利益を度外視し開業することとなり破損箇所を修理して同年十月送電開業せり。

#### 一 資 本 金

興 業 費

哈大洋

一一九、二〇〇元

內 譯

土 地 建 物

三〇、三四〇元

原 動 機

六四、〇〇〇元

製 粉 機

一〇、〇〇〇元

發 電 機

六、四〇〇元

配 電 線

八、三六〇元

#### 二 發 電 所 設 備

發 電 機

製作者 S S 種類 直流三線式 電壓 四四〇 V 廻轉數 八四五回 容量 六八 KW 台數

一基

製作者 バンクコーニール 種類 直流二線式 電壓 二二〇 V 廻轉數 八四五回 容量 二三

KW 台數 一基

原 動 機

製作者 パーヅニア 種類 ロコモビル 汽壓 一二 廻轉數 二四〇回 容量 一二五馬力

台數 一基

#### 三、需 用 狀 況

電 燈

一、七九九燈

#### 四、從 事 員

代 表 者

福 田 千 之 介

主 任 技 術 者

ホ ラ ボ フ

事 務 員

三名

電 路

二名

發 電 所

三名

各 說

二七五

各 說  
雜 計

四名

一四名

(10.1)

### 12 綏化……綏化電燈廠

當廠は始め黒龍江省官銀號の經營に係り大正九年六十馬力直流發電機を設備して開業、同一年製粉業を兼營せるが之が爲め電力に不足を生ぜるを以て十五年五十八KW、九十六KW交流發電機各一基を設備し更に倉庫業をも經營相當の業績を挙げつゝあり。海倫海拉爾兩電燈廠と共に借入金の抵當物件として哈爾濱銀行團に擔保となり居れると謂ふも事業は自ら滿洲中央銀行に接收移管されたり。

#### 一、資 本 金 (七四)

公稱資本金	江大洋	二五〇,〇〇〇元
借入金	同	二九〇,〇〇〇元
興業費	同	五四〇,〇〇〇元

#### 二、發電所設備 (八五)

##### 發電機

製作者SS. 種類三相交流 電壓三,〇〇〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量五七KW 台數一基

製作者SS. 種類三相交流 電壓三,一五〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量八八KW 台數一基

##### 汽 罐

製作者ウルフ 種類ロコモビル 台數一基

##### 汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル 馬力數二三五馬力 台數一基

#### 三、内外線設備 (八五)

電 壓 高壓三,〇〇〇V 低壓二二〇V

電 柱 本 數 三九一本

變 壓 器 一一台 一八五KV A

#### 四、需用狀況 (八五)

##### 電 燈

各 說

各	說	定	額	燈	六七七戶	一、二二九燈
從	量	燈	一九二戶	三、〇七九燈		
街	燈	一九四燈				
共	他	四九五燈				
計	八六九戶	四、九九七燈				

五、從 事 員 (八五)

管理 楊景潤 襄理 王裕思

13 望奎...共和電燈公司

當公司は大正十三年永發成製粉會社の自家用として開設されたるものにして其の餘力を一般需用家に解放せしも營業不振を極め、多額の負債を生じたる爲事業を債權者に讓渡し今日に及ぶ。

一、資 本 金 (七二一)

公稱資本金 哈大洋 一八九、二九五元

借 入 金 同 一二、〇〇〇元

興 業 費 同 一九〇、二八〇元

二、發 電 所 設 備 (八五)

發 電 機

製作者グレスチストローム 種類直流三線式 電壓四七〇V 廻轉數一二二〇〇回 容量九〇KW 台數一基

原 動 機

製作者アスマン 種類ロコモビル 汽壓一二 容量一二〇馬力 台數一基

三、内 外 線 設 備 (八五)

電 柱 本 數 四〇〇本

四、需 用 狀 况 (八四)

電 燈

定	額	燈	二一三戶	四一九燈
從	量	燈	一七戶	一一一燈
街	燈	一八〇燈		
計	二三〇戶	七二〇燈		

五、從 事 員 (八五)

經理 李榮磁 工頭 于鴻恩

其 他 一六人

各 說



14 海倫……海倫電燈廠

昭和二年資本金哈大洋貳拾貳萬元にて株式組織海耀電燈公司開設せられ製粉業を兼營せるが當時小容量の直流發電機を使用せる爲め電力不足を告ぐるに至りしを以て昭和三年現在の百KW交流發電機一基を購入せり。其の後經營困難の爲め昭和六年春黑龍江省官銀號之を買収せるも業績依然不振を極めつゝあり。綏化海拉爾兩電燈廠と共に借入金の抵當物件として哈爾濱銀行團の擔保になり居れりと謂ふも事業は自ら滿洲中央銀行に接收移管されたり。其後昭和九年六月鈴木嘉雄を招聘し銳意改善せる結果最近收支償ふに至れりと

一、資 本 金 (一〇・一)

興 業 費 國 幣 二〇一、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (二〇・一)

發 電 機

製作者ボーゼ 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量  
一〇〇KW 台數一基

原 動 機

製作者エステラー 種類ロコモビル 汽壓一二 容量一二〇馬力 台數一基

三、内 外 線 設 備 (一〇・一)

電 壓 高壓三、三〇〇V 低壓二二〇V

電 柱 本 數 五八〇本

變 壓 器 一二台 一五〇KV A

四、需 用 狀 况 (九・二)

電 燈

定 額 燈 一〇九二燈

從 量 燈 二、三一八燈

街 燈 三〇〇燈

計 五〇二戸 三、七一一〇燈

五、從 事 員 (一〇・一)

管 理 鈴木嘉雄 事務員 八名

發 電 所 七名

内 外 線 四名

雜 計 六名

計 二五名

15 巴彥……彥星電燈公司

民國十八年八月傅宗周等の發起にて創立計畫され翌年三月開業を見たり本公司の形態は合資組織なれば滿洲國電氣事業經營方針に添はざるをもつて股份有限公司に改組す可く目下手續中なり開設以來營業成績は良好なりしが事變後需用家の減少に依り現状維持の程度なり

一、資 本 金 國幣 四萬圓(全額拂込)

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者英國ブラス會社 種類直流二線 電壓二二〇V 回轉數六七〇回 容量三六K

W 台數一基

原 動 機

製作者英國ナショナル 種類瓦斯機關 馬力數四八馬力 廻轉數二三〇回 台數一基

瓦斯發生機

製作者英國會社不明 型圓筒 台數一基

三、内 外 線 設 備

電 壓 二二〇V

電 氣 方 式 直流二線

回 線 數 一

四、需 用 狀 况

電 燈

定 額 燈 五二六燈(街燈六〇ヲ含ム)

從 量 燈 四二六燈

計 九五二燈

五、從 事 員

代 表 者 傅宗周

共 他 一四人

五、錦 州 省

1 義……義縣電燈廠

大正十一年の創業に成り初め有力者の合資に依りたるも收支不良の爲一時休止せしものを義縣政府の補助金に依り供給を再開せり。後再度休業せるが商務會代つて補助金を支出し營業を持続せしめて今日に至る。一ヶ月經費大約參百五拾元にして商務會之を補助すと聞く。

一、興 業 費 投資當時奉票約五〇、〇〇〇元

各 説  
二、發電所設備 (七四)

發電機

製作者 シーメンス 種類 直流 電壓 二五〇V 廻轉數 八〇〇回 容量 三五KW 台數 一基

汽 機

製作者 英國 Rechar'd Garnett & Sons Ltd 種類 ロコモビル 廻轉數 八〇回 馬力數 二五馬力 型横型 台數 一基

汽 罐

製作者 英國 リチアードガレットソン會社 種類 ロコモビル 型臥式 加熱面積 一七五平方呎 台數 一基

三、内外線設備 (二〇一)

電 壓 一一二〇V

電 柱 本 數 一一四本

四、需用狀況 (二〇二)

電 燈 數 一六六燈

五、從 事 員

代 表 者 商務會  
共 他 三人

2 八道壕……八道壕電氣廠

本廠は固と東北礦務總局の管理の下に資本金現大洋百拾七萬元を以て施設せられたるものにして大正十三年三千二百KW交流發電機一基を新設し炭坑用動力並一般電燈に供給し居たるも大正十五年に至り更に同容量の發電機一基を増設せり。送電線路費現大洋拾五萬元を投じて黒山、大虎山、北鎮、溝帮子、新立屯、芳山鎮、新民及白旗堡に對し餘剩電力を供給しつゝあり。昭和七年一月其の筋の依頼を受け最近迄滿電社員數名派遣され管理指導に當り居りたり。

(1) 黒山……黒山電氣分廠 (附大虎山支廠)

大正十五年四月八道壕電氣廠より受電を開始す。受電變壓器容量二百五十KV Aなり。大虎山に支廠を置く受電變壓器容量六十KV Aなり。

(2) 北鎮……北鎮電氣分廠 (附溝帮子支廠)

大正七年二月奉天秦文煥氏等は北鎮公益電氣公司設立を認可せられたるに依り同年七月鐵嶺電燈局との間に設立資本金拾參萬圓に關する借款假契約を結び工事に著手したるも當地第二十八師長汲某の反對を受け、外線の架設不可能に陥りたるに依り同公司の建設を中止し八年一月機器一切を電燈建設準備中の西安に移送し既設發電所家屋も亦十五年八月之を處分せり

各 説

其の後大正十五年に至り八道壕電氣廠は當地に送電し分廠を設く。受電變壓器容量三百六十KVAなり。尙溝帮子に支廠を設く。受電變壓器百十KVAなり。

(3) 新立屯……新立屯電氣分廠(附、芳山鎮支廠)

大正十五年五月八道壕電氣廠より受電を開始す。受電變壓器容量二百五十KVAなり。芳山鎮に支廠を設く。受電變壓器容量三十KVAなり。

(4) 新民……新民電氣分廠(附、白旗堡支廠)

大正十五年五月八道壕電氣廠より受電を開始す。白旗堡に支廠(十五KVA)を設く。受電變壓器容量五百KVAなり。

本、分、支廠綜合

一、資 本 金 (八三)

興 業 費 國 幣 一、二一七、九四八圓

二、發 電 所 設 備 (八三)

發 電 機

製作者SS. 種類三相交流 電壓六、六〇〇V 周波數五〇 廻轉數三、〇〇〇回 容量

三、二〇〇KW 台數二基

汽 罐

製作者B & W 汽壓二〇〇封度 加熱面積三、一四〇平方呎 馬力數三一〇馬力 台數二基

汽 機

製作者クルップ 種類インバルス八段及十段 廻轉數三、〇〇〇回 馬力數四、五〇〇馬

力 台數二基

三、内 外 線 設 備 (八三)

電 壓 特高三五、〇〇〇V(送電) 高壓六、六〇〇V 電燈用二二〇V 電力

用三八〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 送電線二、二九九本 配電線一、三六〇本

變 壓 器 五七台 八三四KVA

四、需 用 狀 况 (八三)

電 燈

定 額 燈 一、八五二燈

從 量 燈 八、六三八燈

街 燈 五、八二燈

各 説

各 説

電 力 計 一、〇七二燈炭坑三一、二燈を含ます  
四九一馬力炭坑六二七馬力を含ます

五、從 事 員 (八・三)

代 表 者 武谷信吉  
共 他 一二八人

六、安 東 省

1 通化……通化電燈股份有限公司

本公司は大正十三年四月資本金奉小洋貳拾萬元にて創立せられたるものにして、其後現大洋拾五萬餘元に改め、六十KW發電機を設備して電燈約一千七百燈を供給す。收支償はず辛うじて經營を續けつゝあり。我社との合辦に依り從來の不振を恢復し將來の發展に資せんとの意嚮を有し居るやうに仄聞す。

一、資 本 金 (七・二)

公稱資本金 國幣 一五六、五七〇圓  
興業費 同 一五五、三八〇圓

二、發電所設備 (七・二)

發 電 機

製作者 G.E. 種類 三相交流 電壓 二、三〇〇V 周波數 六〇 廻轉數 一、二〇〇回 容量 六〇KW 台數 一基

汽 罐

製作者 B & W 汽壓 一、二〇封度 馬力數 一〇〇馬力 台數 一基

汽 機

製作者 W.H. 種類 堅型複式 馬力數 一〇〇馬力 廻轉數 三五〇回 台數 一基

三、内外線設備 (七・二)

電 壓 高壓 二、三〇〇V 低壓 一、一〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 二五〇本

變 壓 器 二一台 六九KV A

四、需用狀況 (七・二)

電 燈 數 一、七〇〇燈

五、從 事 員 (七・二)

代 表 者 解起雲

各 説

各 説 他 一六人

七、間 島 省

1 龍井村...大興電氣股份有限公司

大正八年武樹勳氏事業開設の許可を得たるに依り鮮支人より株式を募集せしも種々の事情に依り大正十三年八月に至り漸く點燈することを得たり。資本金拾萬圓と稱す。發電機は九州水力電氣株式會社より譲受けたるものなり。當公司は最近株主間の紛争絶へず數年間決算報告をなさざる状態にして詳細不明なるも東拓より二五、〇〇〇圓其他の負債を有せり。

一、資 本 金 (七四)

公稱資本金 一〇〇,〇〇〇圓  
興業費 金 一二〇,〇〇〇圓

二、發電所設備 (七七)

發電機  
製作者 B B C 及 マザー プラット 種類 三相交流 電壓 三、五〇〇 V 周波數 五〇 容量 六〇 及 九六 K W 台數 二基  
汽 罐

製作者 B & W 汽壓 一二〇 封度 加熱面積 九五〇 平方呎 台數 一基  
汽 機

製作者 アレンソン 種類 堅型複式 容量 一二〇 馬力 台數 一基  
製作者 キャンベル 種類 吸入瓦斯機關 容量 一七五 馬力 台數 一基

三、内外線設備 (七七)

電 壓 高壓 三、五〇〇 V 低壓 一一〇 V

四、需用狀況 (七四)

電 燈  
定 額 燈 一、八六〇 燈  
從 量 燈 一、〇〇〇 燈  
街 燈 一六〇 燈  
計 三、〇二〇 燈

五、從 事 員 (八四)

總經理 武卓塵 經理 武翔九 技師 ゼレンスキー  
共 他 二〇人

各 説

### 2 理春……旭春電燈公司

大正十一年八月孔佩元氏は資本金現大洋五萬元を以て旭春電燈公司を設立し供給區域を當市街一圓として漸次事業の擴張に努めつゝありしが、發電機の故障續出し遂に休業の止むなきに至れり。爾來事業の復舊に努むるところあり、浦鹽方面より五十KW交流發電機一式を購入し露人技師を招聘して昭和二年三月再び營業を開始せり。後更に二十三KW直流發電機一基を増設す。然るに時局の影響に因り需用家約半數に減少燃料亦騰貴せし爲經營困難の故を以て最近臨時に電燈料金の値上をなせり。

#### 一、資 本 金 (七三)

公稱資本金 國幣 五〇〇〇〇圓

#### 二、發電所設備 (七三)

發電機

製作者芝浦 種類三相交流 周波數五〇 電壓三、三〇〇V 容量五〇KW 台數一基

製作者S.S. 種類直流 容量二三KW 台數一基

原 動 機

製作者大阪發動機 種類瓦斯發生器 台數一基

製作者大阪發動機 種類瓦斯機關 容量九五及五〇馬力 台數各一基

#### 三、需用狀況 (七三)

電 燈 六〇〇戸 一二〇〇燈

#### 四、從 事 員 (七三)

代表者 孔憲琳

### 3 頭道溝……延吉頭道溝聚盛湧電燈廠

延吉縣政府財務處主任張郁文氏並頭道溝聚盛湧燒鍋主任周天福氏との共同經營に依り聚盛湧の十餘年前金壹萬圓にて購入せる十五馬力發動機に上海より金壹千圓にて購入せる獨逸製發電機を連結して昭和六年三月一日より營業を開始す。

當初は日本領事館に供給する目的にて開設されたるも漸次一般の需用増加し一時六〇〇燈に達したることありしも現在は領事館守備隊等に供給せるのみ。目下周文福及張斌兩氏の共同經營なり。

#### 一、資 本 金 (八三)

公稱資本金 國幣 一〇〇〇〇圓

#### 二、發電所設備 (八三)

發電機

製作者T.H. 種類直流分捲 電壓一一〇V 廻轉數一、六〇〇回 容量一〇KW 台數

各 説

各 說

一 基

製作者伏田鐵工所 種類木炭瓦斯發動機 容量一五馬力 台數一基

三、内外線設備 (八三)

電 壓 電燈用一一〇V

電 氣 方式 直流二線式

電 柱 本數 六五本

四、需用狀況 (八三)

電 燈

定 額 燈 二六〇燈

從 量 燈 四〇燈

計 三〇〇燈

五、從 事 員 (八三)

代表者 張斌 工程師 于占清

其 他 六人

八、三 江 省

1 富錦…東興德火磨電燈廠

當廠は大正五年製粉業の附帶事業として開業されたるものなれど汽機陳腐にして能率悪く營業困難なるを以て吉林軍顧問部を通じその買収方を哈爾濱電業局に依頼し來れり。

一、資 本 金 (八五)

投 下 資 本 哈大洋 一〇〇,〇〇〇元

二、發電所設備 (八五)

發 電 機

製作者S.S. 種類交流 電壓五、二五〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量九六K

W 台數一基

汽 罐

種類二セクショナル 汽壓一二五封度 容量三〇〇馬力 台數一基

製作者S.S. 種類ロコモビル 汽壓一二 容量八〇馬力 台數一基

汽 機

製作者モスコウ 種類橫型複式 容量二五〇馬力 台數一基

各 說



各 説

三、内外線設備 (八五)

電 壓 高壓五、二五〇V 低壓二、三〇V  
電 柱 本 數 二、三五本

四、需用狀況 (八五)

電 燈	定 額	五二〇戸	一、七五〇燈
	從 量	五四戸	九〇〇燈
	街 燈		一五〇燈
計		五七四戸	二、八〇〇燈

2 通河……通河電燈廠

當地は松花江下流舍林河の河口に在り、戸數約二千を算へ當地方木材の集散市場たり。未だ獨立せる電氣事業なきも元黑龍江省官銀號經營の製材工場に於て容量十八KWの發電機を設備し、自家用電氣の餘力を以て市内約六十燈の需用に應ず。當廠も亦自ら滿洲中央銀行に接收移管されたるものと聞く。

九、黑 河 省

1 大黑河……恒曜電燈電力股份有限公司

本事業は大正五年紳商丁樹堂氏の發起により設立せられたる株式會社にして現在は梁官臣氏の經營なり。大正十四、五年頃純益年江洋貳萬元を超えたることありたるも、昭和四年露支紛争の際機器、建物殆んど全部破壊せられ、一時營業休止の止むなきに至れり。其後再び復舊し今日に至るも土地の衰微に伴ひ事業不振となり辛じて經營しつゝある現状なり。

尙當公司是電話事業を附帶經營しつゝあり。

一、資 本 金 (七・一三)

公稱資本金 江大洋 一九八、〇〇〇元  
興 業 費 同 一〇〇、五七四元(電話二八、九八五元を含みます)

二、發電所設備 (八・二二)

發 電 機	製作者 S.S.	種類直流	電壓二五〇V	容量二二〇VW	台數一基
	製作者 S.S.	種類直流	電壓二三五V	廻轉數九〇〇回	容量八五KW 台數一基

各 説

各 説

二九八

製作者B & W 種類ロコモビル 汽壓一八〇封度 台數二基  
汽 機

製作者ベルリン 種類堅型複式凝結式 馬力數三〇五馬力 廻轉數三七五回 台數一基  
製作者不明 種類ロコモチープ 馬力數一二〇馬力 廻轉數九〇〇回 台數一基

三、内外線設備 (八・二二)

電柱本數 四五〇本

四、需用狀況 (八・二二)

電 燈

定 額 燈	七六七戸	一、八二〇燈
從 量 燈	七三戸	
計	八四〇戸	二、〇五一燈

五、從 事 員 (八・二二)

經 理 梁 官 臣  
其 他 三九人(電話の従事員を含む)

2 瓊瑋……瓊輝電燈廠

汽力二十五馬力二十一キロ半九十三アムペアの發電所を有し居る由なるも内容不明なり。

十、興 安 省

1 博克圖……チデマン電燈廠

一九二三年二月十五日の營業開始にして二八年迄缺損を続け三一年以後多大の利益を上げ居る由なり。興業費現大洋七萬元なりと。

一、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者S S 種類直流三線式 電壓四七〇V 廻轉數七八五回 容量七〇KW 台數一基

原 動 機

製作者ハイシリツヒ 種類ロコモビル 汽壓一二 廻轉數二二〇回 容量一〇〇馬力 台數一基

二、配 電 線 設 備

電 氣 方 式 三線式四四〇V及二二〇V

各 説

二九九

各 説  
線 路 延 長 一・一五軒  
電 柱 約 三〇〇本

三、需用狀況

電 燈

定 額 燈	二四六戸	六五〇燈
従 量 燈	一八七戸	一九五〇燈
計	四三三戸	二六〇〇燈

四、従 事 員

廠 長	チデマン
外	一五名

(一〇四)

一一、休止中の主なる供給事業

1 大 孤 山 (安東省)

大正十四年十月資本金現小洋四萬元(拂込壹萬貳千圓)を以て元奉天省長翟文選氏の弟翟謀氏等の主唱にて土地の商務會及葛寶林氏協同普照電燈公司を創立し、重油機十五馬力(米フエアバンク)と十KW直流發電機(會社作製)とを設備し電燈約三百燈を供給せしが成績不振にして二百餘燈に減じ昭和四年遂に廢業の止むなきに至れり。

其後新に滿電に於て事業開始の議起るを聞き再び開始せるが間もなく休止せり滿電に於ては地元との交渉煩瑣なるを以つて永く之を關知せざりしも最近地元の希望により計畫中に屬す五〇KW一台千二百燈位の需用を豫想さる。

2 海 林 (濱江省)

當地の電氣事業は大正七八年頃まで英人ジョンズに於て經營されしが中東海林公司之を買収經營中の處昭和四年三月失火し施設燒損して休業す。營業中は電燈數約二百五六十燈なりしも發電機の容量小さく充分供給し得ざりしものと謂ふ。

3 葦 沙 河 (濱江省)

昭和四年油房用の餘剩電力を一般に供給するため福泰電燈廠を創立約一千五六百燈の需用

各 説

に應ぜしも機器の故障續出し尙經營難に耐え得ず昭和七年十二月休業の已むなきに至れり。目下の處機器としては六十馬力の汽罐一基殘すのみ。廠の經理陳密閣氏は昭和七年來哈爾濱に在り。

4 梨 樹 鎮 (濱江省)

當地は洗濯石鹼工場一、油房工場一ありて、其規模小なり電燈公司ありたるも現在休業中にし、て市内公共團體にて穆稜煤礦公司より送電を受けつゝありと聞くも詳細不明なり。

5 横道河子福盛電燈公司 (濱江省)

北鐵沿線各驛電氣事業は多く露人の經營するところにして支那政府の許可なかりしため露西亞革命後中東鐵路露支合辦となり附屬地行政權亦これと共に支那政府に回收さるゝや電氣事業經營權をも同時に回收せんとするの議起れり、本公司は即この機運に乘じ誕生せるものと云ふを得べし。當地電氣事業は元來露人フマコン氏の創設せしことにして北鐵沿線驛に供給する外一般住民にも電力供給を行ひ居りしが大正十五年當地雜貨商福源盛及増盛徳兩商店はフマコン氏よりその事業一切を買收株式組織とせり。買收當時電燈數約千燈月收入千四百元を擧げ居れり、その後事變の勃發を見更に匪賊の襲來水災等により住戸散逸し經營著しく困難となり缺損を續けたるを以て昭和七年七月初旬終に休業の止む無きに至れり。

一、資 本 金 大洋一五、〇〇〇元

二、發 電 所 設 備 (九・二二)

發 電 機

製作者 A.E.G 種類 直流三線式 電壓 四七〇V 廻轉數 一、〇〇〇回 容量 四二KW

台數 一基

製作者 シーメンス 種類 直流二線式 電壓 二二〇V 廻轉數 一、二二〇回 容量 三六KW

W 台數 一基

汽 罐

種類 煙管式 汽壓 一二〇封度 馬力數 八〇馬力 台數 一基

汽 機

製作者 ヲグル・エンジン・アンド・ボイス・ワークス 種類 双汽筒 馬力數 四〇馬力 台數 一基

一基

製作者 アトレス・エンジン・ワークス 馬力數 一八馬力 台數 一基

6 東 寧 …… 耀 東 電 燈 公 司

大正八年八月資本金吉大洋三一、五〇〇元を以て開業當初七〇〇燈點燈せるが漸次増燈し一、三〇〇燈に達し經營順調に發展せるが昭和四年の露支紛争の際破壊され閉鎖の已むなきに至

各 説

り今日尙休止中なり。

一、資 本 金 國 幣 二二五〇〇圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者 Nocker Wheeler Electric Co. U.S.A 種類 直流 電壓 一二五 V 廻轉數 三〇〇回 容量 三

〇 KW 台數 一基

製作者 Halldahm 種類 直流 電壓 一〇〇 V 廻轉數 二五〇回 容量 二〇 KW 台數 一

汽 罐

種類 船舶用 台數 二基

汽 機

種類 ロコモチープ 台數 一基

種別	台數	容量	電壓	廻轉數	製作者	備註
汽機	1	20 KW	100 V	250	Halldahm	
汽機	1	3 KW	125 V	300	Nocker Wheeler Electric Co. U.S.A	
汽罐	2					船舶用
ロコモチープ	1					

# 供給事業便覽

昭和 10 年 3 月 現在

電 壓		周波數	電 燈		電 力		電 熱		地 名	事 業 者 名	資 本 系 統	形 態	開 業 年	代 表 者	發 受 電 容 量	原 動 力	電 壓		周波數	電 燈		電 力		電 熱	
高 壓	低 壓		需 用 家 數	燈 數	需 用 家 數	容 量	需 用 家 數	容 量									高 壓	低 壓		需 用 家 數	燈 數	需 用 家 數	容 量	需 用 家 數	容 量
3,300	100	50	3,533	18,974	37	376	—	—	綏 化	綏 化 電 燈 廠	滿	官營	大正 9 年	楊 景 潤	145	汽	3,000	220	50	869	4,997	—	—	—	—
3,300	100	50	1,067	5,372	4	38	—	—	望 海	共 和 電 燈 公 司	滿	民營	大正 13 年	孝 榮 磁	90	汽	470	220	直流	230	720	—	—	—	—
3,300	100	50	532	3,434	4	2	—	—	海 倫	海 倫 電 燈 廠	滿	官營	昭和 2 年	王 嘉 辰	100	汽	3,300	220	50	502	3,710	—	—	—	—
5,250	100	60	434	2,535	—	—	—	—	巴 彥	彥 星 電 燈 廠	滿	民營	昭和 5 年	傅 宗 周	36	瓦	—	220	直流	—	952	—	—	—	—
3,300	100	50	446	2,223	2	16	—	—	錦 州 省																
—	220	直流	—	1,238	—	—	—	—	朝 陽	滿 洲 電 業 朝 陽 出 張 所	日滿	民營	昭和 9 年	村 井 初 雄	300	受	3,300	100	50	994	6,699	—	—	—	—
2,200	220	50	—	2,500	—	—	—	—	綏 中	綏 中 電 燈 股 份 有 限 公 司	日滿	民營	昭和 8 年	溝 口 茂 男	75	油	3,300	100	50	310	2,198	—	—	—	—
400	220	直流	—	850	—	—	—	—	錦 州	錦 縣 電 氣 股 份 有 限 公 司	日滿	民營	大正 8 年	蘇 廣 倫	1,000	汽	2,300	110	60	2,640	27,796	51	396	—	—
440	220	50	601	2,245	1	7	—	—	八 道 壕	八 道 壕 電 氣 廠	滿	官營	大正 13 年	武 谷 信 吉	6,400	汽	35,000	220	50	—	11,072	—	491	—	—
460	220	直流	—	876	—	—	—	—	義 縣	義 縣 電 燈 廠	滿	民營	大正 11 年	商 務 會	35	汽	6,600	220	直流	—	200	—	—	—	—
—	230	直流	272	1,125	—	—	—	—	安 東 省																
5,250	220	50	5,321	32,733	120	1,668	—	—	安 東 省	滿 洲 電 業 安 東 支 店	日滿	民營	昭和 9 年	高 原 漸	13,000	汽	3,300	100	50	17,338	79,938	430	10,936	117	214
2,300	100	60	1,497	11,865	14	146	—	—	冠 嶺	同 冠 嶺 營 業 所	日滿	民營	昭和 9 年	同 橋 本 文 治	150	受	3,300	100	50	720	2,859	3	21	—	—
3,300	100	50	409	2,102	—	—	—	—	岫 巖	同 岫 巖 出 張 所	日滿	民營	昭和 9 年	橋 本 文 治	50	油	3,300	100	50	1,079	2,650	—	—	—	—
3,300	100	50	606	4,983	6	26	—	—	臨 江	同 臨 江 營 業 所	日滿	民營	昭和 9 年	平 林 市 郎	150	油	3,300	100	50	1,156	4,082	—	—	—	—
3,300	100	50	—	1,225	—	—	—	—	鳳 城	鳳 城 電 燈 股 份 有 限 公 司	日滿	民營	大正 14 年	王 銘 玉 雲	100	受	3,300	100	50	340	1,709	1	10	—	—
400	200	直流	218	823	—	—	—	—	通 化	通 化 電 燈 股 份 有 限 公 司	滿	民營	大正 13 年	解 起 雲	60	汽	2,300	110	60	—	1,700	—	—	—	—
3,300	100	50	332	3,720	3	5	—	—	閩 島 省																
3,300	100	50	554	3,179	—	—	—	—	延 吉	延 吉 電 業 股 份 有 限 公 司	日滿	民營	昭和 8 年	牟 禮 勝 司	300	汽	3,300	100	50	895	6,879	9	60	1	5
2,300	110	50	555	2,904	—	—	—	—	圖 們	同 圖 們 支 店	日滿	民營	昭和 8 年	長 田 和 義	—	受	3,300	100	60	1,745	9,847	10	166	—	—
6,600	234	50	34,817	337,408	1,503	10,724	214	516	明 月 溝	同 明 月 溝 支 店	日滿	民營	昭和 9 年	—	75	油	3,300	100	50	331	1,099	—	—	—	—
3,300	100	50	605	4,618	4	48	—	—	龍 井 村	大 興 電 氣 股 份 有 限 公 司	滿	民營	大正 13 年	武 卓 座	160	瓦	3,500	110	50	—	3,020	—	—	—	—
440	220	直流	369	1,416	—	—	—	—	春 春	旭 春 電 燈 公 司	滿	民營	大正 11 年	孔 憲 琳	73	瓦	3,300	—	直流	600	1,200	—	—	—	—
5,500	110	50	595	3,950	—	—	—	—	頭 道 溝	延 吉 頭 道 溝 聚 盛 勇 電 燈 廠	滿	民營	昭和 6 年	張 斌	103	瓦	—	110	直流	—	300	—	—	—	—
5,250	230	50	381	2,224	—	—	—	—	三 江 省																
—	230	直流	—	513	—	—	—	—	佳 木 斯	滿 洲 電 業 佳 木 斯 營 業 所	日滿	民營	昭和 9 年	中 村 信	320	汽	3,300	100	50	986	6,084	1	2	—	—
2,300	220	60	—	171	—	—	—	—	依 蘭	依 蘭 電 業 股 份 有 限 公 司	日滿	民營	昭和 7 年	—	75	汽	3,500	100	50	552	3,245	—	—	—	—
—	220	直流	178	840	—	—	—	—	富 錦	東 興 德 大 店 電 燈 廠	滿	民營	大正 5 年	—	96	汽	5,250	230	50	574	2,800	—	—	—	—
—	230	直流	1,683	7,089	6	90	—	—	通 河	通 河 電 燈 廠	滿	官營	—	—	18	汽	—	—	—	—	60	—	—	—	—
440	220	直流	273	1,322	—	—	—	—	黑 河 省																
470	220	直流	—	3,000	—	—	—	—	大 黑 河	恒 曜 電 燈 電 力 股 份 有 限 公 司	滿	民營	大正 5 年	梁 官 臣	305	汽	—	250	直流	840	2,051	—	—	—	—
3,300	110	50	—	2,000	—	—	—	—	瑤 安 省																
440	220	直流	—	1,799	—	—	—	—	通 遼	滿 洲 電 業 通 遼 出 張 所	日滿	民營	昭和 9 年	鈴 木 嘉 男	700	汽	2,300	220	60	1,367	7,843	12	232	—	—
—	220	直流	—	1,799	—	—	—	—	海 拉 爾	同 海 拉 爾 營 業 所	日滿	民營	昭和 9 年	脇 坂 正 之	—	受	3,300	100	50	8	534	—	—	—	—
—	220	直流	—	3,000	—	—	—	—	滿 洲 里	滿 洲 里 市 電 燈 廠	滿	公營	明治 39 年	新 妻 眞 次 郎	345	汽	470	220	直流	1,049	6,380	11	81	—	—
—	220	直流	—	1,799	—	—	—	—	海 拉 爾	海 拉 爾 電 燈 廠	滿	官營	大正 2 年	劉 獻 延	400	汽	3,300	100	50	—	5,061	—	220	—	—
—	220	直流	—	1,799	—	—	—	—	博 克 圖	チ デ マ ン 電 燈 廠	露	民營	—	チ デ マ ン	70	汽	470	220	直流	433	2,600	—	—	—	—

滿洲電業株式會社調查課



滿洲二於ヶ

地名	事業者名	資本系統	形態	開業年	代表者	發受電容量	原動力	電壓		周波數	電燈		電力		電熱		地名	事業者名	資本系統	形態	開業年			
								高壓	低壓		需用家數	燈數	需用家數	容量	需用家數	容量								
關東	大連	滿洲電業大連支社	日滿	民營	昭和9年	古泉光男	92,000	汽	3,300	100	50	58,627	373,776	1,189	64,902	1,727	2,877	公主嶺	大同電氣公主嶺支店	日滿	民營	大正6年		
	旅順	旅順民政署	日	官營	明治38年	安永登	2,550	受	3,300	100	50	4,878	34,552	190	2,603	363	789	敦化	敦化電業股份有限公司	日滿	民營	昭和8年		
	金州	金州民政署	日	官營	大正5年	山口和太郎	450	受	3,300	100	50	1,897	8,182	68	720	129	130	蛟河	同蛟河支店	日滿	民營	昭和8年		
	普蘭店	普蘭店民政署	日	官營	大正9年	林田龍喜	330	受	3,300	100	50	1,001	5,006	42	682	9	21	農安	農安電燈股份有限公司	日滿	民營	昭和2年		
	高麗	子高民政署	日	官營	大正10年	亘元啓	1,050	受	3,300	100	50	1,225	4,412	22	309	8	23	下九臺	下九臺電燈廠	日滿	民營	大正15年		
	奉天	滿洲	滿洲電業奉天電業局	日滿	民營	昭和9年	趙壽芳	8,800 受18,000	汽受	6,600 2,300	220 110	50	39,344	396,374	1,568	24,392	384	1,072	樺甸	耀樺電燈公司	滿	民營	昭和8年	
		蘇家屯	同蘇家屯出張所	日滿	民營	昭和9年	橫山末寅	750	受	3,300	100	50	1,748	8,300	15	112	151	169	磐石	磐石電燈廠	滿	民營	昭和9年	
		營口	同營口支店	日滿	民營	昭和9年	阿部覺磨	5,300	汽	3,300	100	50	10,054	53,568	217	3,800	147	242	密門	密門電燈廠	滿	民營	大正7年	
		鞍山	同鞍山支店	日滿	民營	昭和9年	小林太吾	250	受	3,300	100	50	5,436	42,440	72	1,762	40	109	扶餘	扶餘電燈公司	滿	民營	昭和3年	
		海城	同海城出張所	日滿	民營	昭和9年	畑島傳吾	250	受	3,300	100	50	465	3,739	15	400	64	82	松江	松河江站電燈公司	露	民營	大正12年	
連山		同連山出張所	日滿	民營	昭和9年	—	—	受	3,300	100	60	671	2,613	—	—	—	—	—	榆樹	榆樹電燈公司	滿	民營	昭和3年	
清原		同清原出張所	日滿	民營	昭和9年	—	—	受	3,300	100	50	543	2,053	—	—	—	—	—	齊齊哈爾	齊齊哈爾支店	日滿	民營	昭和9年	
瓦房店		同瓦房店電燈株式會社	日	民營	大正3年	水野鐵雄	450	受	3,300	100	50	1,785	8,658	19	270	23	32	齊齊哈爾	同齊齊哈爾出張所	日滿	民營	昭和9年		
熊岳		同熊岳支店	日	民營	大正13年	同	50	受	3,300	100	50	514	2,712	5	27	—	—	—	克山	克山電業股份有限公司	日滿	民營	昭和9年	
大遼		同大遼電燈株式會社	日	民營	大正5年	平田力	600	受	3,300	100	50	1,534	7,777	46	1,496	79	130	—	—	—	北安	同北安支店	日滿	民營
新開	鐵嶺	同鐵嶺電燈公司	日滿	民營	明治44年	千靜遠	3,750	受	3,300	100	50	4,009	20,927	106	2,677	61	95	—	—	—	—	—	—	
	嶺子	同嶺子電燈局	日	民營	明治43年	永井良治	1,500	受	3,300	100	50	5,923	20,720	75	696	93	155	—	—	—	—	—	—	
	新開	同新開電氣株式會社	日	民營	昭和6年	同	100	受	3,300	100	50	1,137	2,996	4	20	6	9	—	—	—	—	—	—	
	昌圖	同昌圖電業股份有限公司	日滿	民營	大正3年	千和正彦	1,500	受	3,300	100	50	4,061	15,398	41	752	31	51	—	—	—	—	—	—	
	西豐	同西豐電業股份有限公司	日滿	民營	大正10年	同	148 75 受150	受	3,300	100	50	662	2,063	7	152	—	—	—	—	—	—	—	—	
	西安	同西安電業股份有限公司	日滿	民營	昭和7年	同	150	受	3,300	100	50	905	3,206	5	43	—	—	—	—	—	—	—	—	
	西安	同西安支店	日滿	民營	昭和9年	吳家蘇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	山城	同山城支店	日滿	民營	大正11年	同	1,770	汽	3,300	110	50	1,411	7,087	1	370	—	—	—	—	—	—	—	—	
	海龍	同海龍支店	日滿	民營	昭和2年	同	160	汽	3,300	110	50	1,217	4,384	1	25	—	—	—	—	—	—	—	—	
	四平	街源	同街源電氣株式會社	日	民營	昭和10年	同	60	受	3,300	100	50	668	4,047	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法庫		同法庫縣電燈廠	日滿	民營	大正6年	富田登二	1,650	受	3,300	110	50	5,341	19,756	45	1,093	231	339	—	—	—	—	—	—	
蓋平		同蓋平電業股份有限公司	日滿	民營	大正7年	張忠義	540	汽	2,300	100	50	1,076	6,852	6	98	—	—	—	—	—	—	—	—	
海城		同海城電氣有限公司	日滿	民營	昭和2年	楊春元	350	汽	2,300	110	60	999	4,636	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
四平		同四平電業股份有限公司	日滿	民營	大正12年	侯顯謨	100	受	2,300	100	50	480	2,807	8	60	—	—	—	—	—	—	—	—	
海城		同海城電氣有限公司	滿	民營	大正13年	幸德潤	200	受	3,300	100	50	521	8,015	14	146	—	—	—	—	—	—	—	—	
四平		同四平街市電燈股份有限公司	滿	民營	大正12年	畢贊華	100 150 受	受	10,600 3,300	220	50	—	3,319	6	30	—	—	—	—	—	—	—	—	
吉林		新開	同新開電業局	日滿	民營	昭和9年	吉田豐彦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		范家屯	同范家屯出張所	日滿	民營	昭和9年	岡村金藏	18,400	汽	3,300	200 100	50	21,296	179,329	477	14,070	745	1,511	—	—	—	—	—	—
		吉林	同吉林支店	日滿	民營	昭和9年	三川仙助	300	受	3,300	100	50	659	2,765	1	5	18	17	—	—	—	—	—	—

備考 發電容量ハKW受電容量ハKVAヲ單位トス



り今日尚休止中なり。

各 説

三〇四

巻	頁	目次	備考
一	1	北滿鐵道沿線に於ける電氣事業概況	(絶版)
二	2	滿洲國內電氣企業計畫經過概要	(絶版)
三	3	滿洲に於ける自家用發電所	(絶版)
四	4	滿洲に於ける電氣事業概説(改訂再版)	(絶版)
五	5	ソヴェート聯邦に於ける電氣事業概説	(絶版)
六	6	滿洲及中國に於ける輸入電氣用品に關する調査	(絶版)
七	7	中華民國に於ける電氣事業(民國二十一年度)	(絶版)
八	8	主要電氣會社職制集	(絶版)
九	9	中華民國電氣事業第一卷(江蘇省・浙江省)	(絶版)
十	10	同 第二卷(河北省・山東省)	(絶版)
十一	11	中華民國に於ける電氣事業法規集(第一編)	(絶版)
十二	12	同(第二編)	(絶版)
十三	13	同(第三編)	(絶版)
十四	14	最近十箇年間に於ける電氣關係主要文献目錄	(未刊)
十五	15	中華民國に於ける電氣事業(民國二十二年度)	(未刊)
十六	16	中華民國電氣事業標準會計科目制度	(未刊)
十七	17	滿洲國公司法並電氣事業法規集	(未刊)
十八	18	ドニエプロストロイ及ウラル・クズネツク結合企業	(未刊)
十九	19	中華民國電氣事業第三卷(福建省・廣東省・廣西省)	(未刊)
二十	20	中華民國電氣事業第四卷(山西省・河南省・安徽省)	(未刊)

調査課調査資料刊行物目録

- 第一輯 北滿鐵道沿線に於ける電氣事業概況 (絶版)
- 第二輯 滿洲國內電氣企業計畫經過概要 (絶版)
- 第三輯 滿洲に於ける自家用發電所 (絶版)
- 第四輯 滿洲に於ける電氣事業概説(改訂再版) (絶版)
- 第五輯 ソヴェート聯邦に於ける電氣事業概説 (絶版)
- 第六輯 滿洲及中國に於ける輸入電氣用品に關する調査 (絶版)
- 第七輯 中華民國に於ける電氣事業(民國二十一年度) (絶版)
- 第八輯 主要電氣會社職制集 (絶版)
- 第九輯 中華民國電氣事業第一卷(江蘇省・浙江省) (絶版)
- 第十輯 同 第二卷(河北省・山東省) (絶版)
- 第十一輯 中華民國に於ける電氣事業法規集(第一編) (絶版)
- 第十二輯 同(第二編) (絶版)
- 第十三輯 同(第三編) (絶版)
- 第十四輯 最近十箇年間に於ける電氣關係主要文献目錄 (未刊)
- 第十五輯 中華民國に於ける電氣事業(民國二十二年度) (未刊)
- 第十六輯 中華民國電氣事業標準會計科目制度 (未刊)
- 第十七輯 滿洲國公司法並電氣事業法規集 (未刊)
- 第十八輯 ドニエプロストロイ及ウラル・クズネツク結合企業 (未刊)
- 第十九輯 中華民國電氣事業第三卷(福建省・廣東省・廣西省) (未刊)
- 第二十輯 中華民國電氣事業第四卷(山西省・河南省・安徽省) (未刊)

調査課調査資料刊行物目録

昭和十年八月五日印刷  
昭和十年八月十日發行

編輯  
行輯  
人兼

出  
原

佃

滿洲電業株式會社大連支社

印刷人 吾妻力松

大連市東公園町三十一番地

印刷所 滿洲日報社印刷所

大連市東公園町三十一番地

發行所 滿洲電業株式會社調查課

45  
415

終

